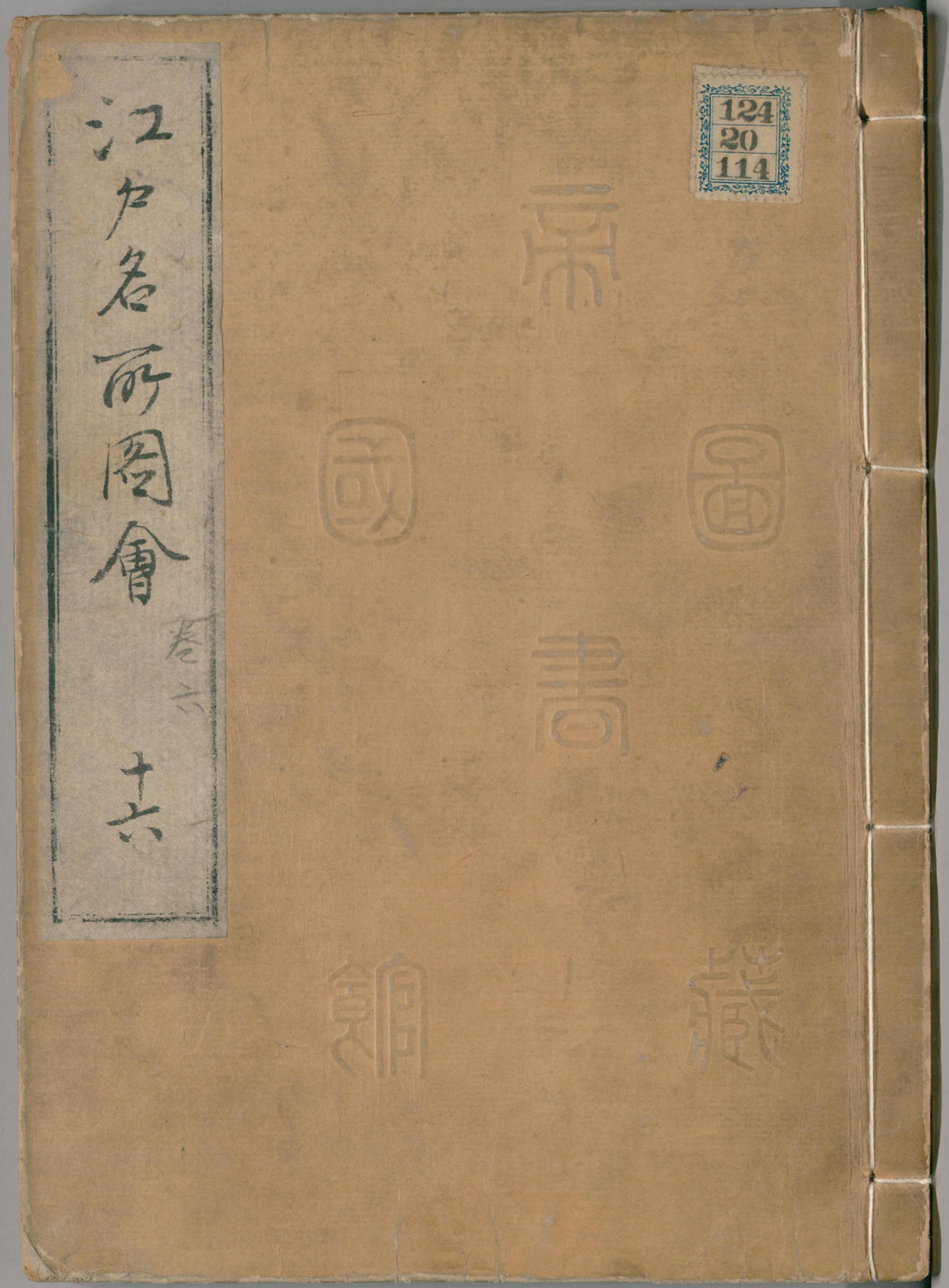


国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

江戸名所図會 十六

東京圖書館
和書門 地理類 九函 六架 二〇號 二の冊

124
20
114

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

江戸名所圖會卷之六

岡陽之部 同録

金龍山浅草寺

観音堂　古佛なる
山門　慈眼殿　護摩殿　一体現社
二王門　一体現社
雷神門
十二月十八日年の市有
淺草川
淺草寺
浅草大師護摩壇之看經師
石の柱来由
観世音出現ふし有
藪内流茶席有
向ふ飛観音堂
樋寺　坂の下に有
浪声八幡宮
西福寺　報恩縁来由有
本願寺
天嶽院
清水ふ観世音
長遠寺日蓮大士
三浦明神社　同東の方に有
大菅菜八幡宮
第六天神社　縁起有
淨念寺
報恩寺　開山古ふる寶
稲荷社
上之太子堂
幡隨意院　妙教寺
除厄太子堂
信州善光ふ燒写
東漸寺
藝願寺
東光院
三囲稲荷社　同東の方に有
隅魔堂　奪衣婆　地蔵観音
多聞堂
輪蔵
念仏堂
淺草観音河
楊枝店
藥堂来由の ふ
二月十六日ふの内
随身門
開帳使番
仲町
二体現社
十社権現社
淺草寺
焼ふ池
西宮社有
坂倉
十二月十八日年の市有
淺草川
元祿時古跡
淺草寺
金龍山
淺草寺
観音堂
古佛なる
二王門
雷神門
淺草川
淺草寺
浅草明神社　同東の方に有
稲荷社　十王堂
多聞神社
手向地藏祠
日輪寺
海禪寺
祝言寺

故椙原芳楚納本
椙原家蔵
小林蔵書

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

永昌寺
東叡山山下の北
養玉院
金杉安楽寺
不動堂流行の松
木戸孝範第宅旧跡
後るの塚
熊野権現社
徒行詣の処
除木不陀如来
白龍塚
石濱
牛頸天王祠
天満宮
隅田川渡
石濱古戦場
瑞泉寺
墓
鏡ヶ池
東野先生墓
長昌寺
墓
蓑掛松
法恩寺
今戸八幡宮
元平合戦之圖
浅茅ヶ原
柔如塚
加尾不動堂
妙亀塚
玉脇稲荷祠
山谷堀今戸橋の南
慶養寺
聖天宮
日本堤

廣徳寺
上野東天神社
若宮稲荷堂
根岸園光寺
園中
桃樹
羅漢石
元三大師
小塚原天王社
不忍大橋
富士浅間宮
西方丸大師堂
大師加持水
梅田明神社
天満宮
不忍池
弁天島
石濱城跡
不忍池
二番目
名所
不忍岡
上野坂本江圖
小野照崎明神社
時雨岡
下谷稲荷社
下谷摩訶耶寺
山谷龍田明神社
二月村八幡宮
鷲大明神社
同系
名日神明宮
誓願寺
沼田延命弁天
十二天森
思ひ川

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

金龍山淺草寺　傳法院と號す坂東順禮所第十三番目の札所

宗門は東叡山に屬せり

按るに東漸の起源は人皇卅四代推古天皇の御宇三年辛卯三月十九日の曉、檜前浜成・竹成の兄弟、宮戸川に漁猟して一寸八分の觀世音の尊像を感得せしに、其後、土師中知夫、此尊像を安置して、供養恭敬せしが、其後、勝海上人、此地に来りて、一宇の精舎を建立して、尊像を安置し奉りしより、此地を浅草寺と稱せしとぞ。

本堂　本尊聖觀世音菩薩　世に傳ふる所の御長一寸八分と云ふも古より秘佛にて、輒く開帳を許さゞれば其實を知る者なし。

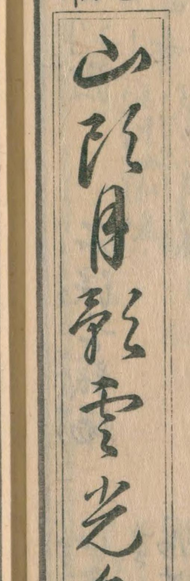
脇士　梵天帝釋　此二尊は行基大士の作なりとあり。

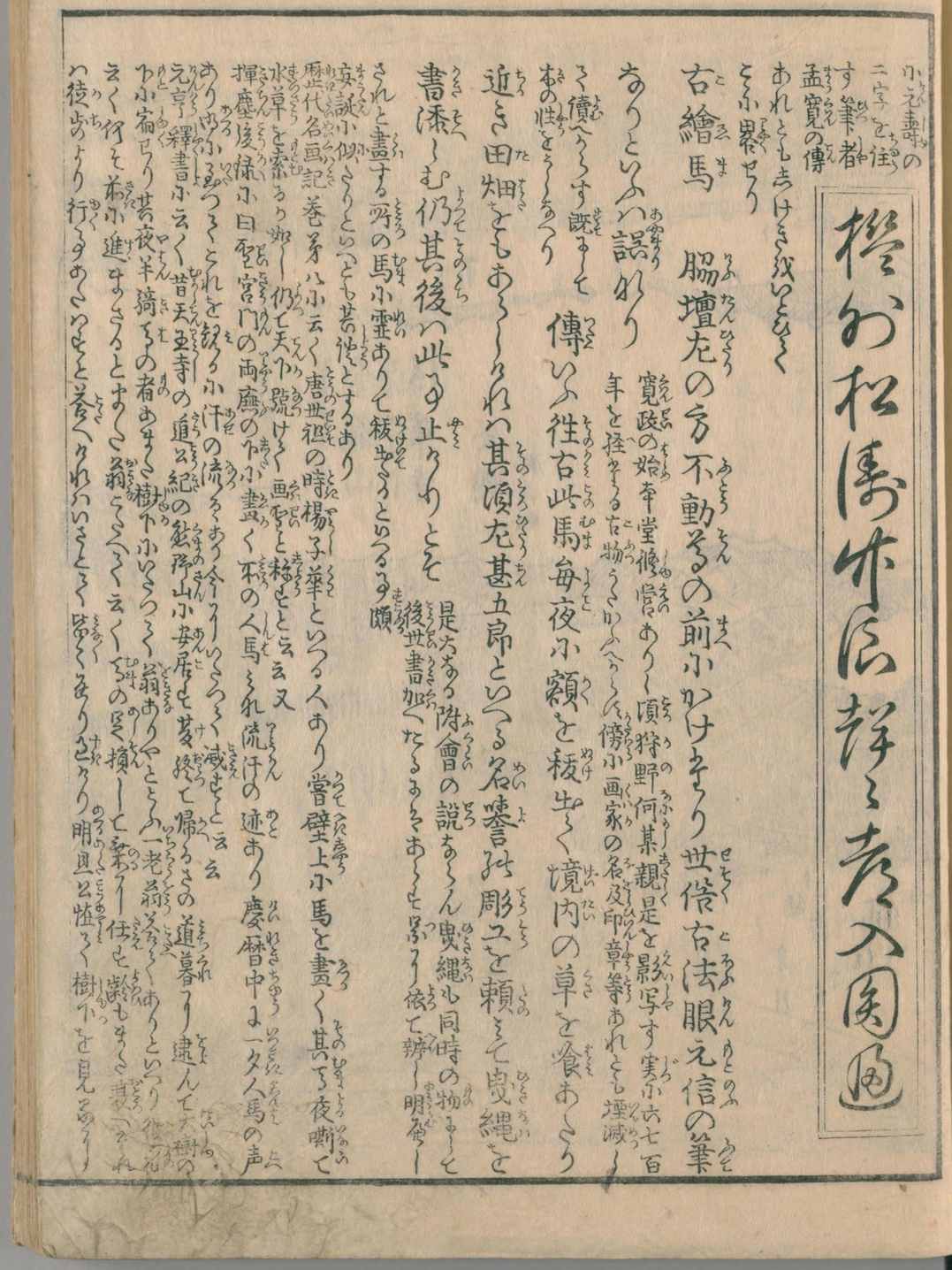
愛染明王　後左右　三十三身像　其余堂内小祠の佛天を安置す中にも寶頭盧尊者は慈覺大師の作なりて靈驗いちじるしよし。

額　觀音堂　御拜の　大明福州漳郡龍邑徐紹勳筆

額　絶無畏　刹陣の家帶　深見玄岱筆　天井の龍は狩野永真の筆、拜殿の二十八部衆等は狩野永納春の筆あり。

聊　内陣の左右に掲る額


山門額雲光自筆


松林伯圓書

小石塔等の二字を注す筆者孟寛の傳あれども未だ詳ならず

古繪馬　脇壇左の方不動尊の前小かけそり世俗右法眼元信の筆のようにいふは誤りなり　寛政の始幸堂得悦等あり〳〵頃狩野何某親是を影寫す実に六七百年を経る古物なり〳〵傍小画家の名及印章等あれども煙滅〳〵

傳ふる往古此馬毎夜小額を抜出〳〵境内の草を食あらすこと既にして仏天の感應ありて画ける名畫なれば彫刻を厳重にし鬼縄も同時の物なりと附會の説あり〳〵

書添〳〵む仍甚後に此事止りとぞ　是古き後世書加へたるものあり〳〵

近き田畑をもあら〳〵れい甚須左甚五郎とかいふ人あり當壁上小馬を畫く其の夜嘶て水草を食あらし仍て天下號けて画馬と稱せしとぞ又揮塵後録に曰聖宮門の両扉のかた小畫く本の人馬それぞれありの如くなりとぞ

歴代名画記巻第八に云く唐世祖の時楊子華といふ人ありて畫する所の馬に霊あり或夜窓を開きて出ようとするあり安誕小伝にいふ云々

元亨釋書に云く昔天竺の道公紀の鉢を飛山に安居せしに翁ありやとう一老翁ありといふ〳〵翁あり〳〵翁云く何を求に進むやさるとよりく翁云く〳〵いかいさとく答くれいさとく徒歩のより行〳〵多あらんと答くれいさとく答くれいさとく明旦公笹〳〵樹下を見をめり〳〵

きんりうさん
金龍山
せんそうじ
浅草寺
全圖
共五枚

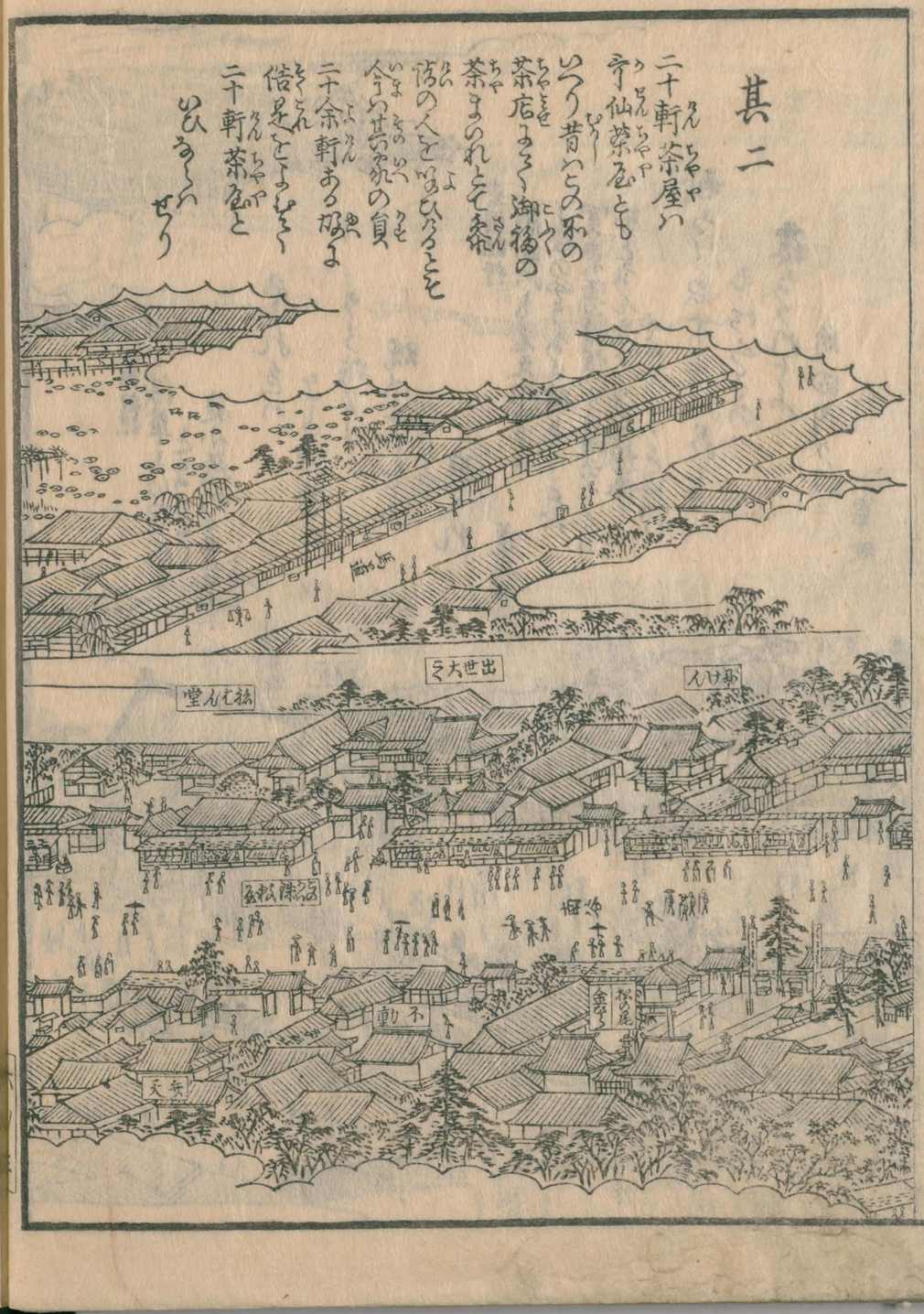
東國雜記
淺草といふ所
庭小殘れる菊花を
見てよめる
道興准后

きくもまた
うつろひやすき
うき世かな

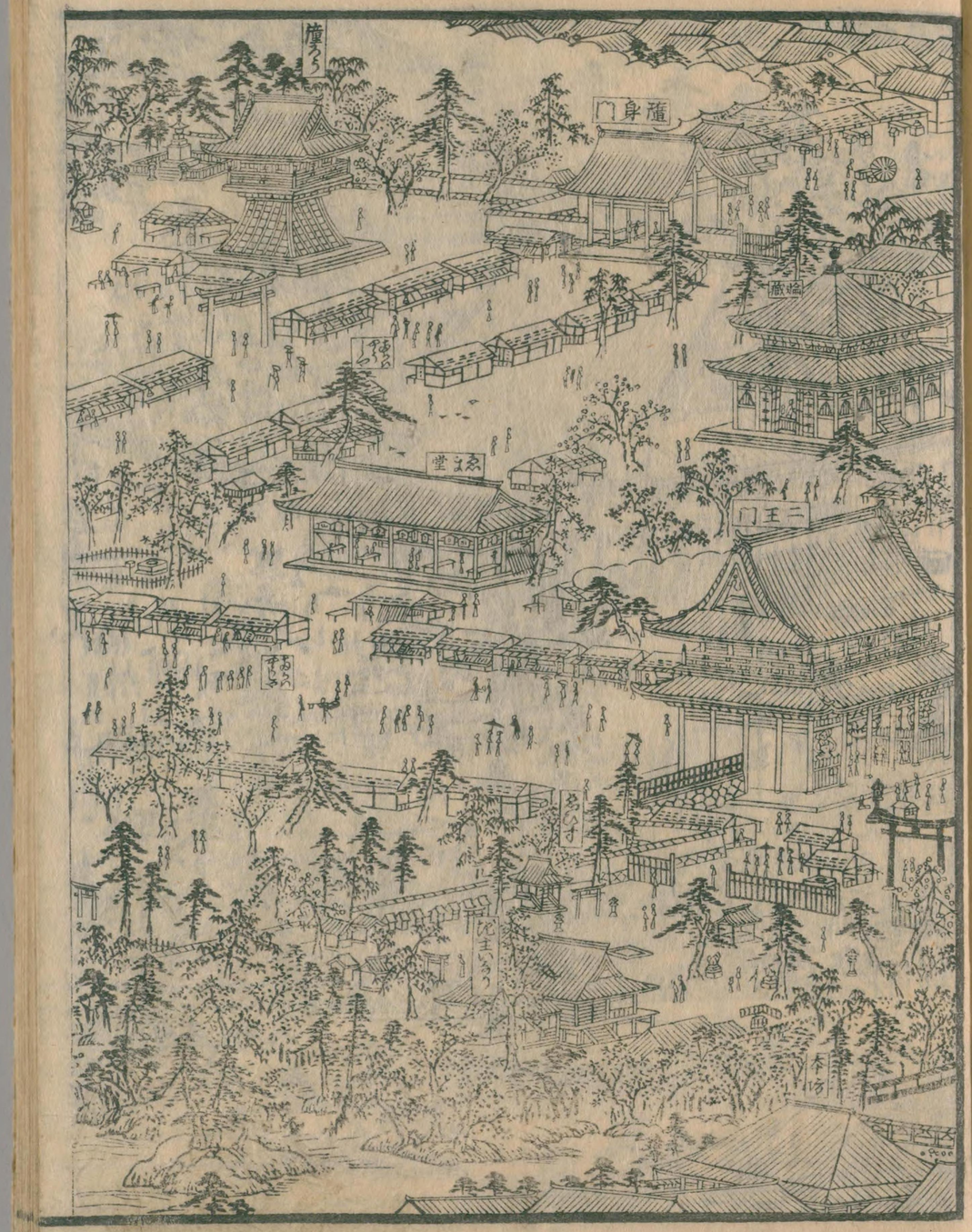
東國記行
角田川もえもいはるる
春のあけぼの
霞の袖をも
ぬらすとよめる
梢あり
又東順禮親子
主從
五人
ともづれ
とよめる
ことのはの
秋ふかき
あはれさの
露もいまだ
きえやらぬ
角田川かな
宗牧

其二

二十軒茶屋ハ
守仙茶ゑとも
いつ〻昔ゝの形の
茶店ゟ〻〻御福の
茶ものれとそ茶
店の人をまねくことを
今ゟ其ゝ形の負
二十余軒あるなり
俗足とゝゟ〻〻
二十軒茶ゑと
いひならハせり



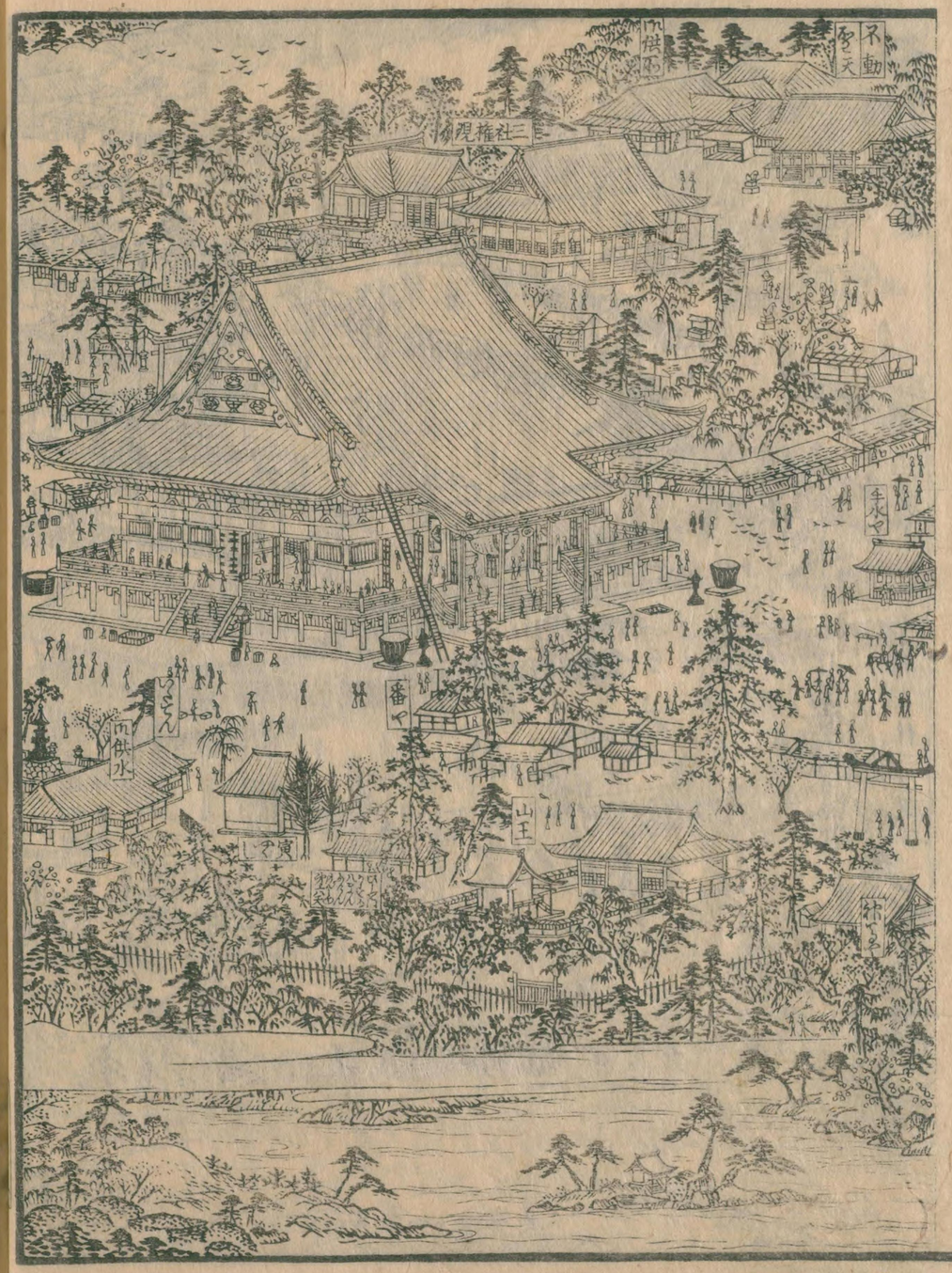
立元集
名の
枕子
鮫や
ゟ〻ゟ
今ゟ
茶ゑ
其角
浅艸寺ゟ
時鐘
錦袋ゟ
二王
観音
ゟく参り
ゟ〻ゟ
ゟ〻ゟ
ゟ〻ゟ



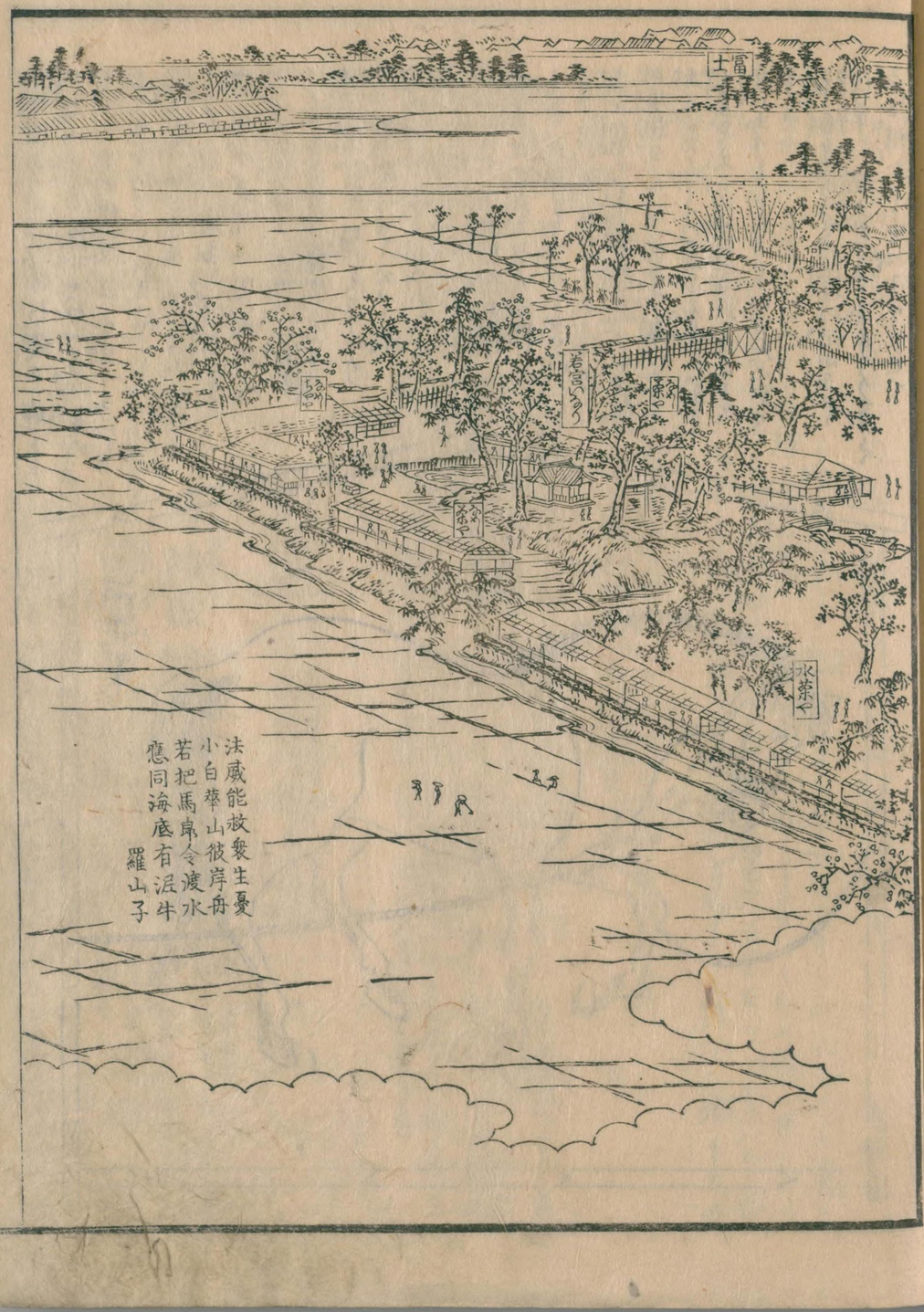
其三

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用



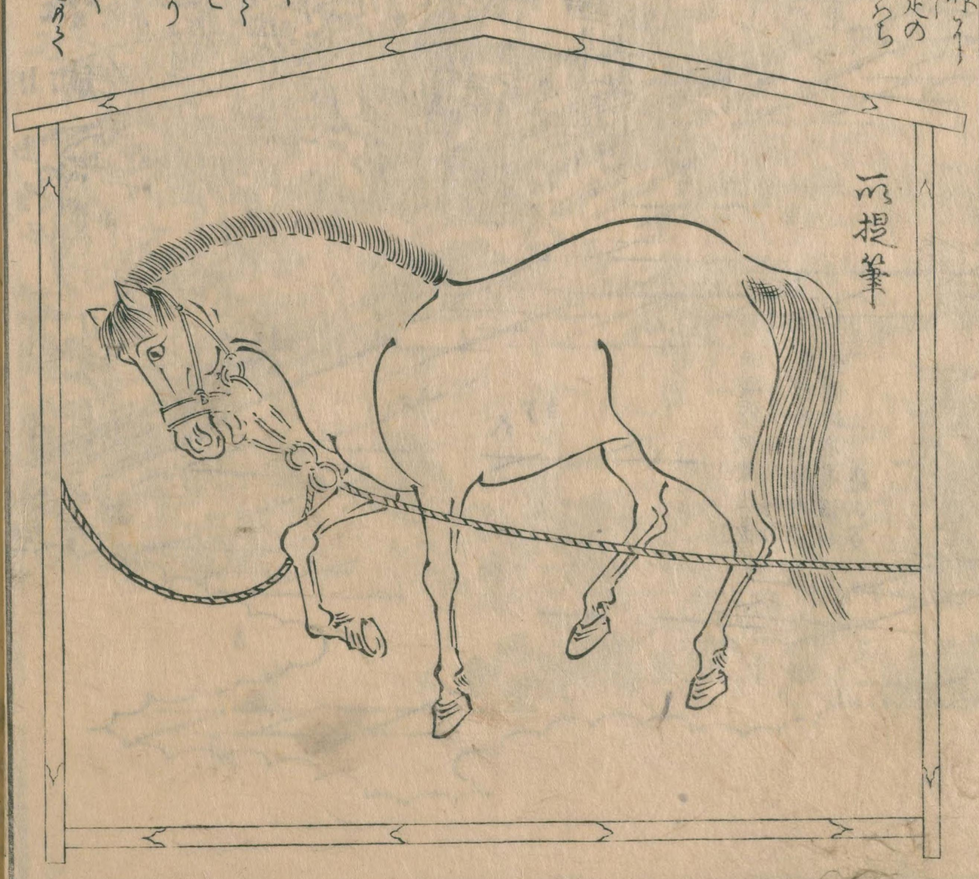
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用



其五

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

小神祠あり其像木偶を厨子に安置す
一行のおさ修行するより前足の
ところその板破裂をなすものから
糸をもつて繋神に
前の神言をあらそうんと
しく其夜も中夜まで猪馬のく
寐ねて翁を見ず翁も小栗
しくさりて逃さり
暁小至つく帰きさう
くふ辰ひ謝〳〵く云く師
馬の脚を洗〳〵めんこと
幸ひ小堪さう公向猪
のくろ行と翁曰役疫神
管内を巡れるありあれ
も其お掘そうりりさられい
くのく罵を受く今師の
恵を蒙り幸慶甚深〳〵とぞ
丙辰記れる昔妙不思議
走りあり〳〵とぞ大士の化頭なれるふとそ
牛ハ出るをあり〳〵かり死とあり
さく
挙白条めつまの道の紀ふく
浅草の観音とく巫女りそのく
るの寺 佛おそそにハ



小栗提筆

いうなれや狩辺かり餌の浜草のからむおもはさるこそつる 長嘯子

秘ふ挙白集あるとも甚あとなるれとうそくく
大士の化頭ありあと幸ふ此縁ふる小霊あり
りそを奉〳〵くふや寛永年中観音堂囲緑のとく
焼うちんをを歎き助けき〳〵かりとくく別當智樂院僧正其志を感〳〵く猪馬の縁りたの
如く記〳〵亜まてり
寛永十九壬午二月十九日炎焼之時武州江戸之住木村市兵衛出く

紅葉狩繪馬 ほし呼ふ掲そり曽我蛇足九代孫曽我祐叔の筆好り

静長刀 本堂の後の方家帯ふかけくあり世ふ義経の妾静御前納る呼ありと云伝へくりこれ
大士の化頭ありあと幸ふ此縁ふる小霊あり
りそを奉〳〵くふや寛永年中観音堂囲緑のとく
焼うちんをを歎き助けき〳〵かりとくく別當智樂院僧正其志を感〳〵く猪馬の縁りたの
如く記〳〵亜まてり
寛永十九壬午二月十九日炎焼之時武州江戸之住木村市兵衛出く

山門 棟上ふ文殊菩薩の像を安置ふ棟下の左右ふ金剛力士の像を置来由ふ此巻載恩
ま什宝蛇反鉾の条下ふ詳ありされと往古の霊像ハ囲緑ふてありとそ今あり呼の像ハ
後人の作ありり毎年春秋二度の彼岸の中日あくふ正月七月十六日ハ諸人の登るをゆるとそ

額

浅草寺

曼珠院二品良尚法親王真蹟

五層塔 山門の内右のるかあり 転輪蔵 同呼ふあり一切経を収む前ふ傳大士ありひて普
内ふ五智如来を安置す 賢普成の像を置呼ふの堂ハ其始妻房守ふ
稚の建立〳〵今あり呼の堂ハ天和年中 同呼東のるふあり豊臣秀頼公
焼亡の後の御建立ありり 薩埵 同呼
按るふ本堂ふ統起の中ふ永和に年成午十二月十三日 鐘楼 同呼
送りとくとも未一ありの再興も致さと大元愁給ふ呼ふ修行の 小あり
聖ふ定滅ありりの十方ふ衰進

し愈永ふるり獻ふ威就もとある藝の谷呼記銘の書小短慶中安房守孚ふ雅觀音堂再興のとふ
一鰐の息撞を鑄てそくく一樓小らるとある永和の田畑小亡ひらる撞のさるくて至德に年小ふるり
再び今ある呼の洪撞を鑄治ヒーとまるくく亦德ヒ年ハお慶と改えの年ちり

日本國武州豊島郡十束鄉金龍山淺草寺洪鐘銘
並序

夫鐘者震梵苑之枯禪發驟檀之深省者矣南閻浮提各以音聲長爲佛事西郡勝地特開檮蓁邨此道場於是傳法聊持短跋勸發善緣新鑄息乳之鐘永和龍澤之月耳根契證者速趨解脫之門庭眼裏聞聲者則蓮田通之妙果當時若不記者後代誰得識哉銘曰

末鑄成前　響隔九天
規摸脫出　當空高懸
至德二年丁丑五月初三日　大勸進僧都海譽
小勸進大和國道高
鑄工和泉守經宏

三社大權現社　本堂より艮の方小あり古師臣中知ちくひ小ふれく擔前價成武威拳の靈を配ヒ崇
祠則當寺の護法神とす世小三処の権現の俵奉の勅使の守りて祭礼ハ三月十日開年小執行あり三社の護法ともいふり神酔ハ慈覺大師の作とそ當社
ちく小暑ヒ傳の堂ちり荒澤ハ動ふる歡喜天等を安置ス

額　三社大權現　隨喜樂院一品ム遵法親王眞蹟

熊谷稲荷祠　本堂の後の方小あり熊谷妻左衛門
ふる人勸請と未由ハ繫をひとくくと小暑と
内陣小狩野周信筆の摺女慶の掛繪あり

十社權現祠　因呼左の方小あり十人の單刈を描ふると
より未由ハ幸ふる緣起の条ハふつまひらくく

念佛堂　因呼小あり阿弥陀如来を執ふる
十六日条衛群をちどり額小圓王殿と
あり朝鮮國真蹟金啓弁の筆ちり

圓藤堂　本堂の乾の方小あり觀ハ運長の作ちり毎年正月七月
二日晝夜二六時中小念佛を唱ハ

脫衣婆像　因堂中小あり慈覺大士の作
ふて靈驗あり

地藏古碑

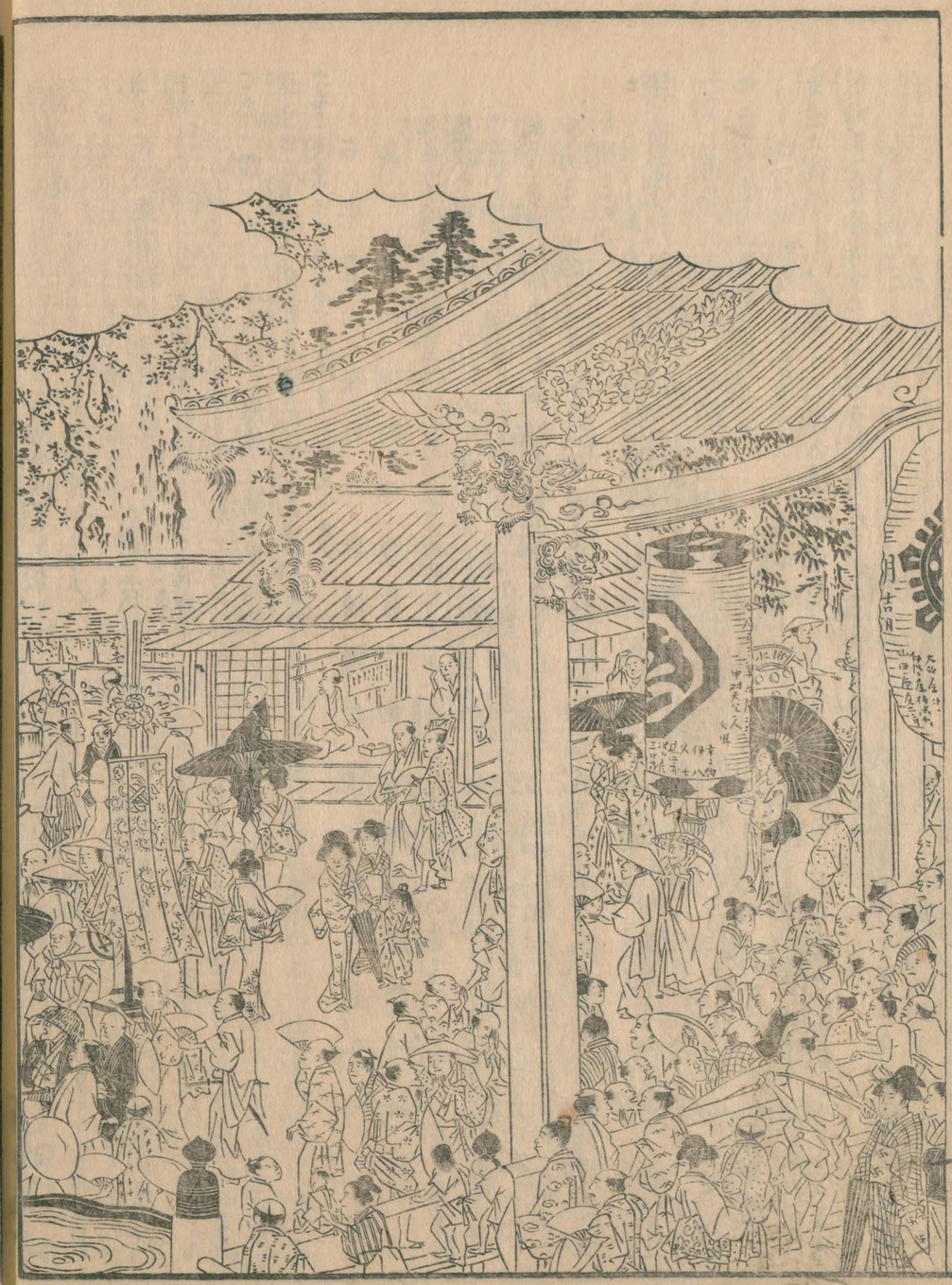
右志者四珠由三眛汝彌西佛先妻女並男女二子
爲一珠四彌西佛現當二世諸願四滿西佛敬白

護摩壇之趾　因呼慈地を權現の後の方地の中小あり宮和帝天長年間慈覺大師東國
遊化の路次通當寺小詣り堂前小特念するのあくく三社權現の靈示ありて
加護を再營ありて永く止觀の法燈をかゝけ中興の大祖と稱ふけとふに一千座の護摩ふを修し
よう一攻東順礼記ちり出ふる

護國殿　因呼小あり丸大明王の像ちくひ自然木の
東照大權現の御宮ありし頃の護摩堂たりしら實
傳ハ此五へ迄しるとを叶ふ小花其あるも葵の御紋
あり小ふ昔叶ふ小
陰鳴明神社　本堂の左の方小あり東照大權現の御宮ありしら寛永十九年
二月十九日門前より出火を其時ろあるつて
御宮焼亡ありし小依

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

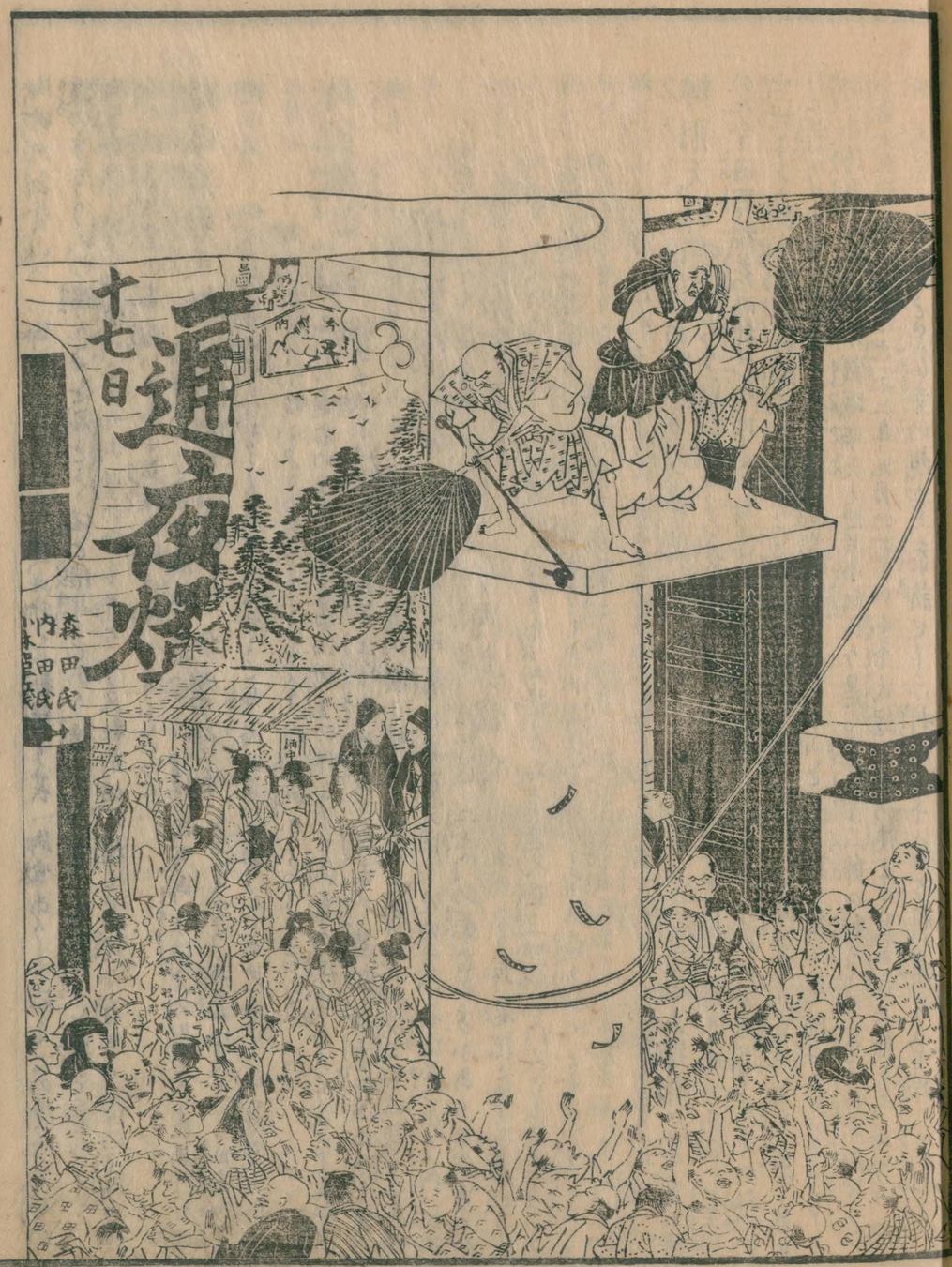
六月十五日
さのれのの
祭禮之圖



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

節分會



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

兵藤平内云衛
二王座禅像

御遷宮ありて芸源此神を勧請す芸源の方ちかくの傍に御宮あり頃の傍に傾水あり則堂のうしろ井ありまた大黒のお像いとも小弘法大師の作ちかくの社前の石橋も芸源ふねどり像の小祠ちかく

銭塚辨財天祠　同所御手洗池のかさまにありて塩松をめぐらす毎年正月十七日日光御祭礼の使参向のとき昔よりのちかくの地より往古の禮小依ち例幣使

此所小

西宮稲荷祠　山門の前右の方小あり當山北土の神なり

稲荷を中千束稲荷ととなえつたえ是を上千束稲荷大明神とあるは大明院公の法親王の筆蹟ありて新敬あちこちとなつて傍の祠小頓阿法師の他社人九の神像を安置又同二王門の茶右の方小あり平内兵衛尉像

うちの因果をめぐらす念を加ふ　因果

辨財天社　山門の前右の方沈の中島小山の上小あり世小老女貌才天と唱ふ神躰小慈覚大師

池そばの祠あり霊猿をいちちろ

青山主殿こゝにくらくの赤士まで強盗のかちとゝ云後年石平道人正三鈴木の門人とありてよろ

禅堂を祝ぐと則此石像七二王座禅の辨相よりて平内兵衛尉と称す

松室営寿大姉とあれば平内兵衛氏ちろへあれ

ん辨財天社　山門の前右の方沈の中島小山の上小あり世小老女貌才天と唱ふ神躰小慈覚大師

の左今西宮稲荷の祠の社地ようを記ぢち

空地ちく観音堂至の祠像のこありて堂社ぬ　紫一おか山門の東の方小大佛を安置奉ちむと祭たる山あちとゝいつろう今の井方天の社ある石の小山ちをいつろ

小条五代記等の書小太永二年九月のそーぬ小条氏総ようの使として富永三郎左ろ古河の御

帰るさ當寺の観音へ参詣せーふ折ふ一十八日ちれい常よりも殊ふ参詣の人

群集ともに元叡天堂の迎より殘陽ゆうまありて歎徒の人叫喚をとる手傾制しくれども遂に翁寂寞

異のおもひをなし歸てはすを民綱へとゝろゝを記ちり

鯨鐘 因呼小あり二六時是を撞ゝ

鐘銘曰寛永丙子歳
大猷院家光公詣當山觀音堂見伽藍破壞即
作之凡二十餘所又於堂後林中創建
東照宮佛閣悉燔燼
命改
造之功
命山城守戸
命老臣某等營造如初自爾以
公儉
風雨所侵寢至敗毀今
大樹幕下美
先公之事起土木
田忠昌使十
命左衛門尉建部昌孝立
三浦義成八
命右衛門尉國重清薫匠事鳴呼結
搆之崇彩餙之美仰而可望俯而可欽功德之大豈
可量哉其樓上所掛之鐘亦破裂因改鑄之備
牧野成貞喜捨黄金二百兩
鐘既成作
銘並序刻之
銘曰
鐘銅鑄
治功已成
撞
鯨鐘本無音
觸物能鳴
衆生一切
種種有聲
音是何
一
擊之
殷
殷雷轟
迷夢頓驚
況
唯一銅鯨
威德峰巒
薩捶
悲願維明
衆生急發
誠念彼力
恭称其名
諸苦
若解脫

元禄五年次壬申八月日

武州豊島郡金龍山淺草寺
別當
權僧正宣存拜撰

鋳師武州深川
大田近江大掾藤原正次

石枕　ほ中東中谷明王院小あり庭中小さ池あり是を焼り池とすまこと尚まの什寶ふけるの枕あり傳説ハ文明年中道真の北后田圃雑記ふをる文章をこゝ記を願る偖作と異のうり田紀るをりつゝ左ふ筆て其行くまゝるの文一紀をこゝむ

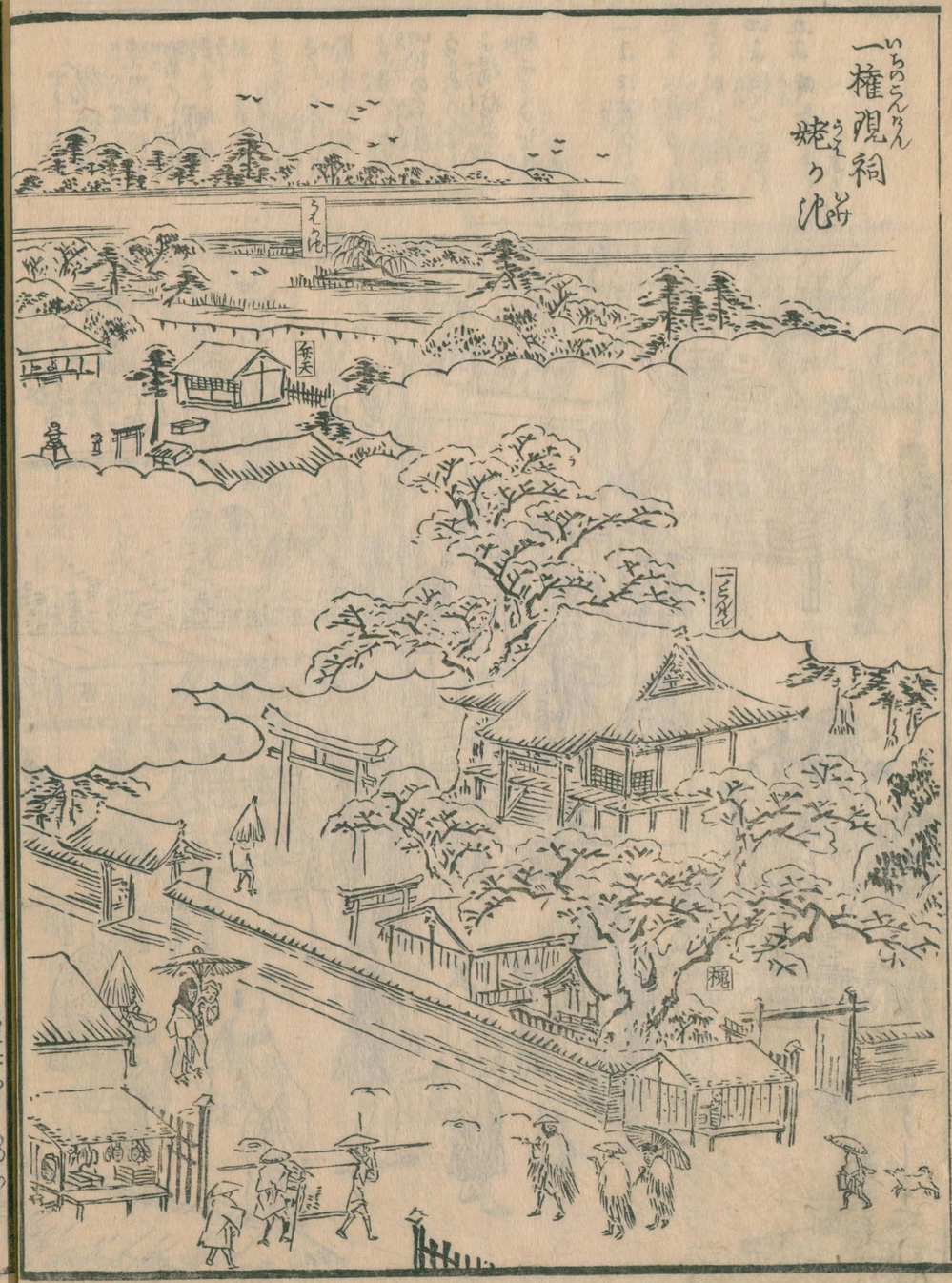
田圃雑記云　此里れるとゝふ石枕とらくるぬーたおふ石のり其故を尋ゝるに中頃の事ふやありるむ其ゝ容ゑほるよのつ祝ちりかの父母娘を遊女ふたて道ゆさもとふむりひかの名ゆゑとにいさちひて交會のゆゑとへゆとーむりり兼てりあいつの夏ちれわ折ををかゝひて彼父母枕のゑとに立寄こゝ名ーそるる男のかうゝをうちらたさそ衣裝改下の物を取て一生を送り作りたるほとふ彼娘はやゝゝふひるふやうあるひさまーや筏程もち此世の中ふかくるぬーさの葉をゝて父母ろとも悪趣ふむゆのかれーさ先非ふ重て悔ても益めーこ是より後のゆさまくゝ立夫ゝて所詮我父母を出ーゆ

楊枝店

境内楊枝を弘く店賣ーを柳屋と称するりのをりて本源とをさゝれと今ハ其ゑ号を唱ふるゆゑ名ゆく竟よ此地の名産とゐる也ゝ僧徒律よ楊枝よ五ッの利あるゆを載て云く

一ニ口苦ゝく
二ニ口に臭ゝく
三ニ風を除さ
四ニ熱を去て
五ニ疫をのそく
とあり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用



一権現祠　姥ヶ池

さて見むと思ひある時道ゆく人あり外ざまいつもの如くむ得て頭を打てたゞり急き物とも取むとく引ゆきたる夜をあけて見ればかく獨ごちてよろく〳〵これや我娘ならむもろ〳〵とひてなさまざまに云ちらされ〳〵夫より彼父母をつふ發ん〳〵て度さの悪業をも悉懺悔〳〵て今の娘の菩提をも深くとむらひそくりくと語伝へるよし古老の人申

ハ

ほそとろの石川る世もちき石枕さこそおりと思ふらめ

當所の寺号淺草まといふ十一面観音ふてまつをきくひむさ

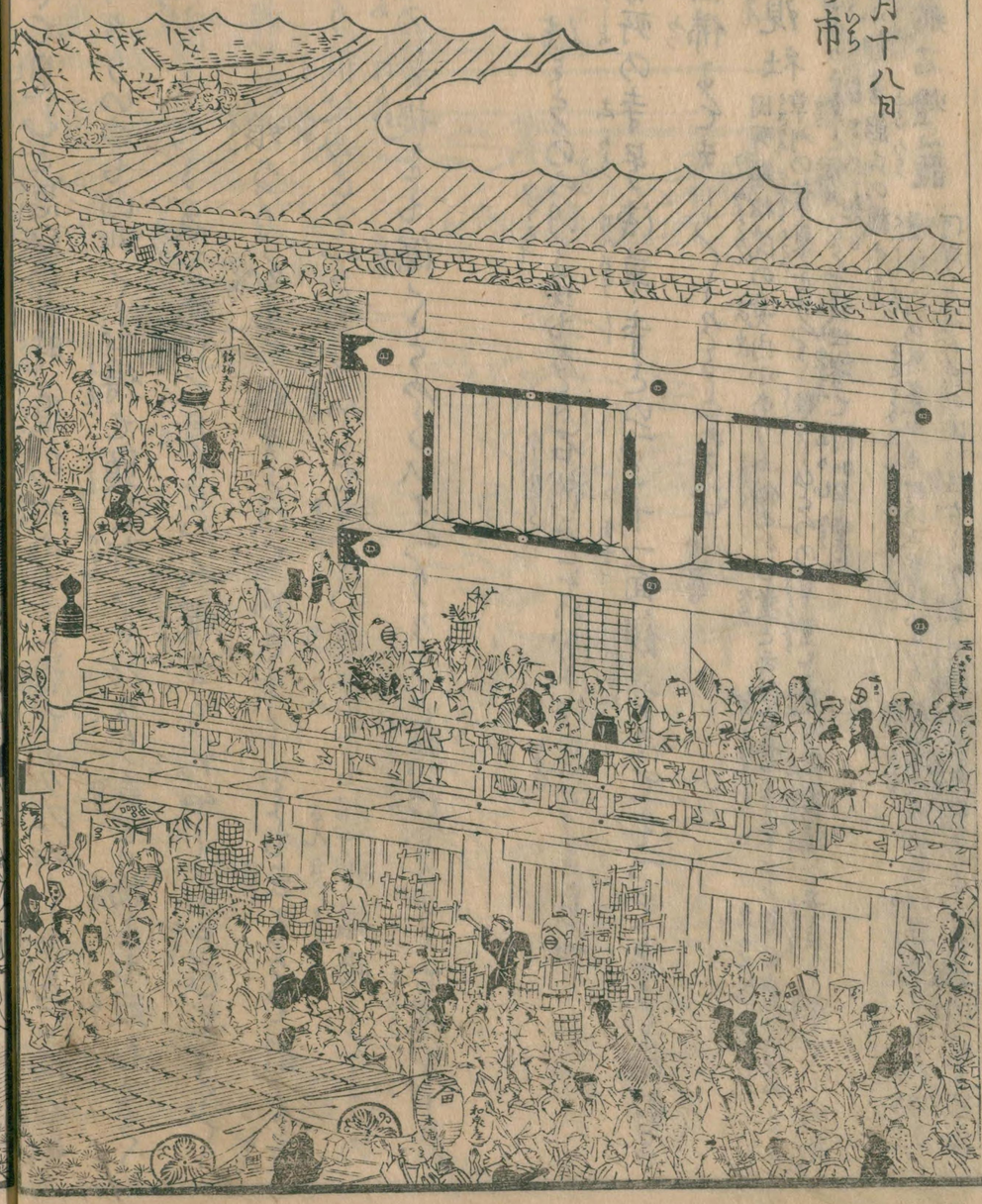
霊佛みそまく〳〵ととむ

一権現社　因所顕杜院の境内小あり土俗あふむ堂と云往古當寺本尊観世音出現のときさう〳〵の草刈の葦蓑をりつく杜そこひろの草堂と帰ふあろさ堂と帰ふあろさと後世謬て阿加半堂と云ふ傍小観ろ影向の槻あり雷神門の外荒川戸町の入口に角ふあり姥ふ土人此所の汚岸をさ〳〵て古池往古より奥州海道の馬次ちり〳〵とを其頃〳〵の

六地蔵石燈籠

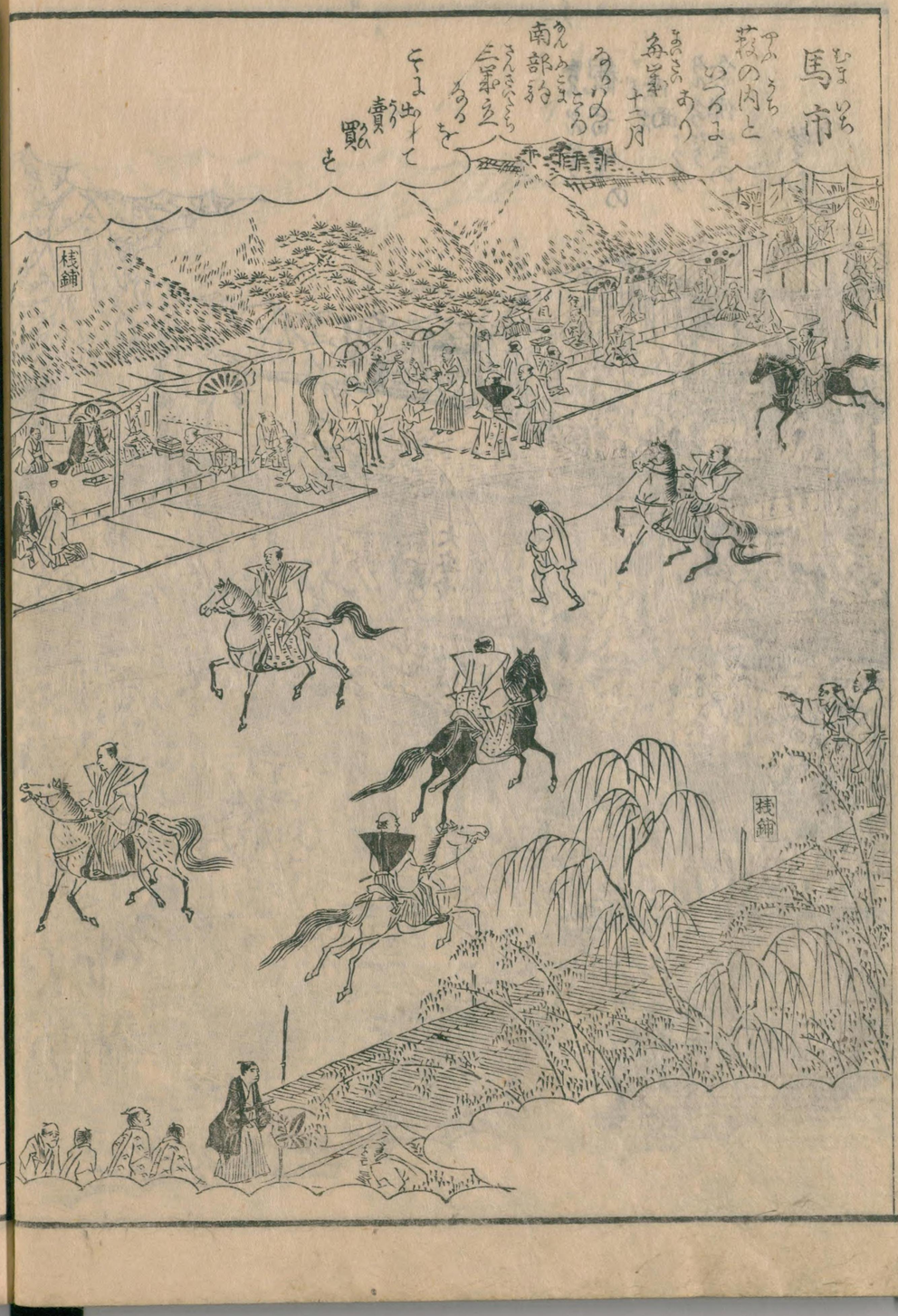
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

十二月十八日
年の市



観音堂の西面より
念佛堂のうしろを望む図

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用



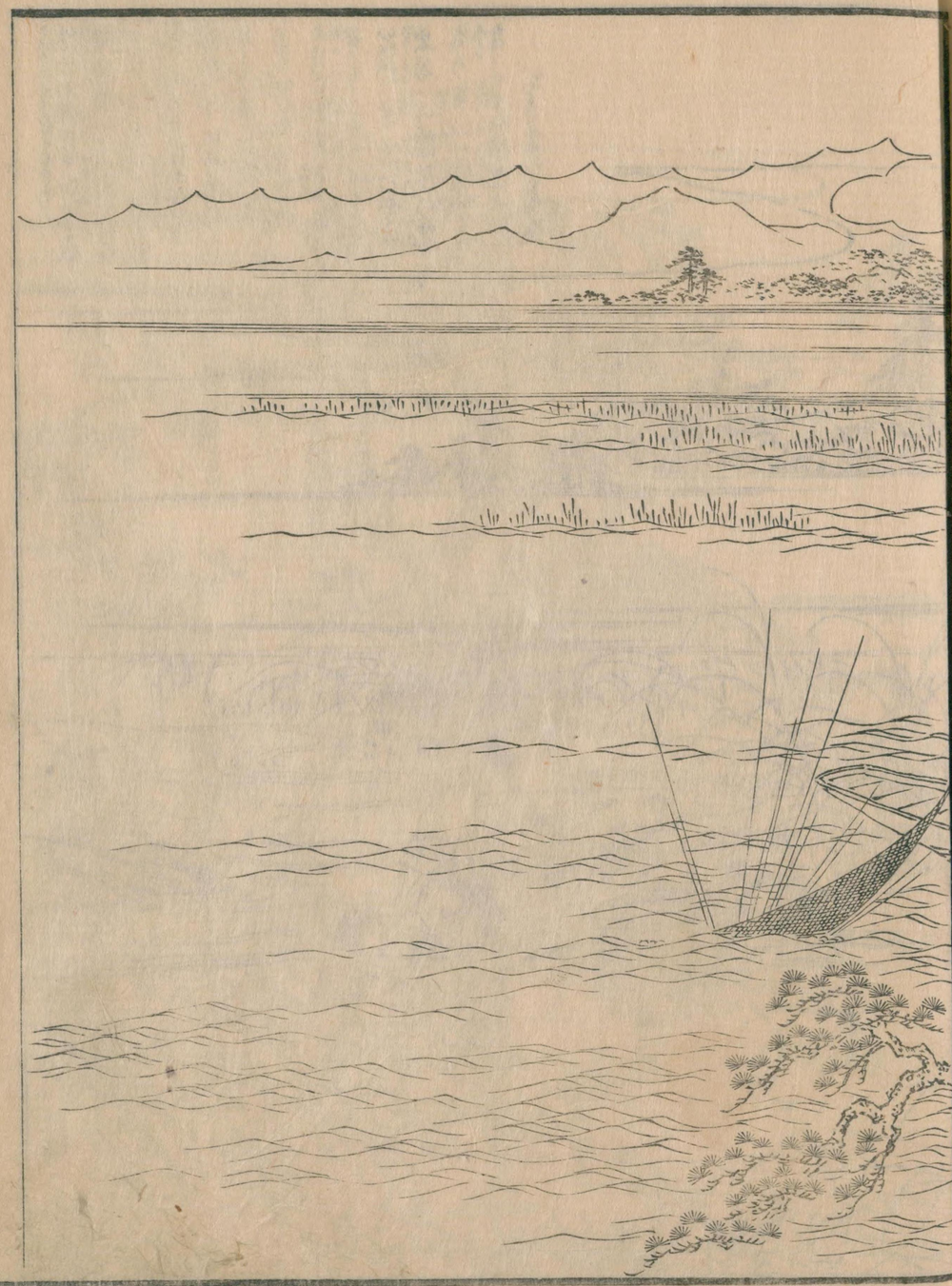
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

門前旅籠屋町ゆゑしれたる茂右衛門燈籠のあるより駒留
十二月十九日の市うち此辺は草深きを賈人家〳〵と
侍〳〵云久安二年丙寅九馬頭義朝當寺観音〳〵
〳〵と祈つゝ挙る小松あれとも丈なる剌落〳〵鮮明
猶現然そうそうる六尺あまりの火袋の
六面小お酔の地蔵そるを彫刻ぜり
坊舎三十余宇
當寺ハ浅草第一の精舎ゆゑ
故小悪く拾遺すくなつて
専堂坊　齋堂坊　常音坊
時も三人の輩三基の祢塁を供奉ス又三坊のうち
観音畧縁記牛王宝印挙を出ちり
雷神門　當寺南の總門ちり左右小風雷の二神を安置
〳〵寛政の今再建あり
額　金龍山　曼珠院二品良尚親王真蹟
本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇土師臣中知とのつる人故あ
て此地小流浪　旧本紀曰垂仁天皇三十一年野見宿祢小姓て土師氏の姓を賜ふとあり
陀佛云中知祢加登哉又　祢八天穂日命十四世の孫ちりとかや中知も此遠裔ちるへし
登哉奈利も訓をとめり　山岡明阿筆
人恒小漁猟を産業とす〳〵小年月を送ちり
小作七可ちらんあと續日本後記小柳前舎人直由加麻呂武蔵國小美
するとあり又延喜式兵部省諸国牧の中ちも武蔵國柳前馬牧とあり是等ふるとこ

（濱成武成も此國の人ぞちらん歟）

同三十六年戊子三月十八日の朝碧落小雲消て蒼溟の
風静ちるれい小舟小楽〳〵此所の沖小出て網をおろさ小海小ちり〳〵旧
名を宮戸川と称ス　遊興いさゝかおかく幾度も同〳〵観音大士のそる像のそかを禍ふ
異浦小至りてもいよ〳〵志かり依て主従数さ是を奉持〳〵帰を
機縁の深うさるを思ひて其家小安すとめ〳〵も唯真奥の採小雑さ
を忘るゝのそ　世小草刈の童集つゝ蓼をとりつゝ俄の
御堂を造るといふこと猶起小所見ちり〳〵　そこをひて終小魚舎をあら
ゑて一宇の香堂を経営り彼尊像を安置〳〵奉る　今の一権現の其
後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日霊告ありて田祿す　旧浅草川むら
夫より田祿七度小及といへとも幸さい自ら火焔を発ひて悉れ〳〵　を経て数百
是累年小地小漁猟殺生を業とそて汚穢の所ちれい焼除て清浄
ハ幸さる小及ひありて〳〵とを悟く　後久く堂宇破壊小をよん〳〵を
炎上の後蜜猿いよ〳〵いちちる〳〵　孝徳天皇大化元
年乙己勝海上人東行の次適て小未て再営す　勝海上人　則當寺の元山と称もとのときの
て奇異の霊告をかうむり夫より　天慶五年壬寅安房守平公雅
己降秘佛とそ拝するやちり　大系図従五位上平公雅武蔵守小任ちる
〳〵前太平記巻六巻小菅原秀卿平親王将門を誅する功小よつて　天慶三年三月廿九日
武蔵下野両國の守小任ちるとあり又同書小同四年七月十六日詔記小二月　将門純友誅戮の時も

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114　ガラス使用



長谷寺観音大士
の出現あり。
推古天皇三十六年
戊子三月十八日の
土師の臣中知こと〳〵く
檜前濱成武成等
の士従三人とこの宮
戸にくよ網をかして
江辺そるを得たり
しより縁記
の中よ詳なり

そのころこの一のおとゝおろかも
往古土師臣甘知をよび
樽前濱成武成等の
土従(つきしたがひ)後草川より祖しと
観音大士の霊像を
感得(かんとく)ぜり依此地の
草刈集て菴室を
営(いとなみ)仮の御堂を
安置(あんち)なりけると
いひ伝(つた)へ其四方(そのよも)今の
東谷一の権現の地
なり草刈(くさかり)後神よ
なりて十社権現と
いつきまつるとぞ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

両度の戦ひ小軍功あるを以て武蔵守ふ任ぜられしの国五年の役任限満すて重病ふかゝつて卒せ依て此雅を其国の守ふ任ぜらるゝことあり名雅小常陸太禄国書の第上總介良兼の長男つゝて卒将門と諫ふ切腹あつて六郎名連

當寺小詣當国の大守たるもの度を新求すゐくもるゝ迄任ずるの

此国の守とるゝられい霊験の空かりけるをあやき奉つて本堂をよび宝塔撞楼

楼門経蔵法華常行六所の社壇 六所の社いまる考つて を造ろ〳〵田園數百町を附して長く龍

華の暁を期せむ 又長久二年辛巳十二月廿二日大地震動〳〵佛客顛倒遥小後白河院兼曆

三年己未十二月廿日堂塔回禄す其時本尊火中を出ゐ坤の榎の枝うつゝ

なふ兼徳二年戊寅二月藤原成實四箇年の間當国を沙任〳〵猶重任の聖

めりく祈願〳〵霊験あり依代々宰龍の田畑を尋〳〵元の如く皆給入〳〵奉

る 按小大系図小係成實とそ〳〵人武蔵介小

ありなるあり〳〵小孫原とあり誤あるへ〳〵 其後左馬頭源義朝當寺すゐ泰詔あつて

堂塔を修営〳〵彼坤の榎を以新小観音の像を彫刻〳〵納らる 其像今内陣

奉行鎌田兵衛政清と書あり〳〵 按小泰詔年中義朝當寺観音〳〵依とありもゐ荒川

戸の池尻の石燈籠の銘小久安二年丙寅とあり〳〵 按小泰詔より久安

隅田の西河を渡らくとあれば八月十七日とすべきおぼつかなし五年の間あれいかゞとも政清今をけく

普請のみをつゐさとり〳〵ころの事あるべき〳〵

佛閣を修営す治兼四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあり〳〵 按小泰詔より十七日小

〳〵 又仁安三年戊子用舜法印大衆小同ん

る田園若干を寄附せらるゝ是平家追討の新願小依ゐくもり承久三年辛巳

る禅尼政子二品及相加武加両刺史致信〳〵願書を捧け白檀の大悲の

像一軀と白衣の綾羅の帳一もれ信濃布千端を寄附ありもゐ伏見院

御宇正應二年己丑十月廿一日大補聖と

方小勧進〳〵正安二年庚子三月十八日修営落成す其後建武年中将軍

尊氏鎮西發向の折〳〵夢想小依ゐく當寺観音〳〵願書をこめらるゝ国観音

三年壬辰 今年文和と改元あり 国二月廿日 縁起小三月廿日と

南朝の正平七年あり 武蔵野合戦小も兼て勝

利あるへきを祈願あつて合戦の後美田を寄らる 按小泰詔より

至ゐ国録九疋小をよへり其後嘉慶元年丁卯修行の聖

定猷ゐる者勧進の功を募て無永小いろ〳〵建立成就

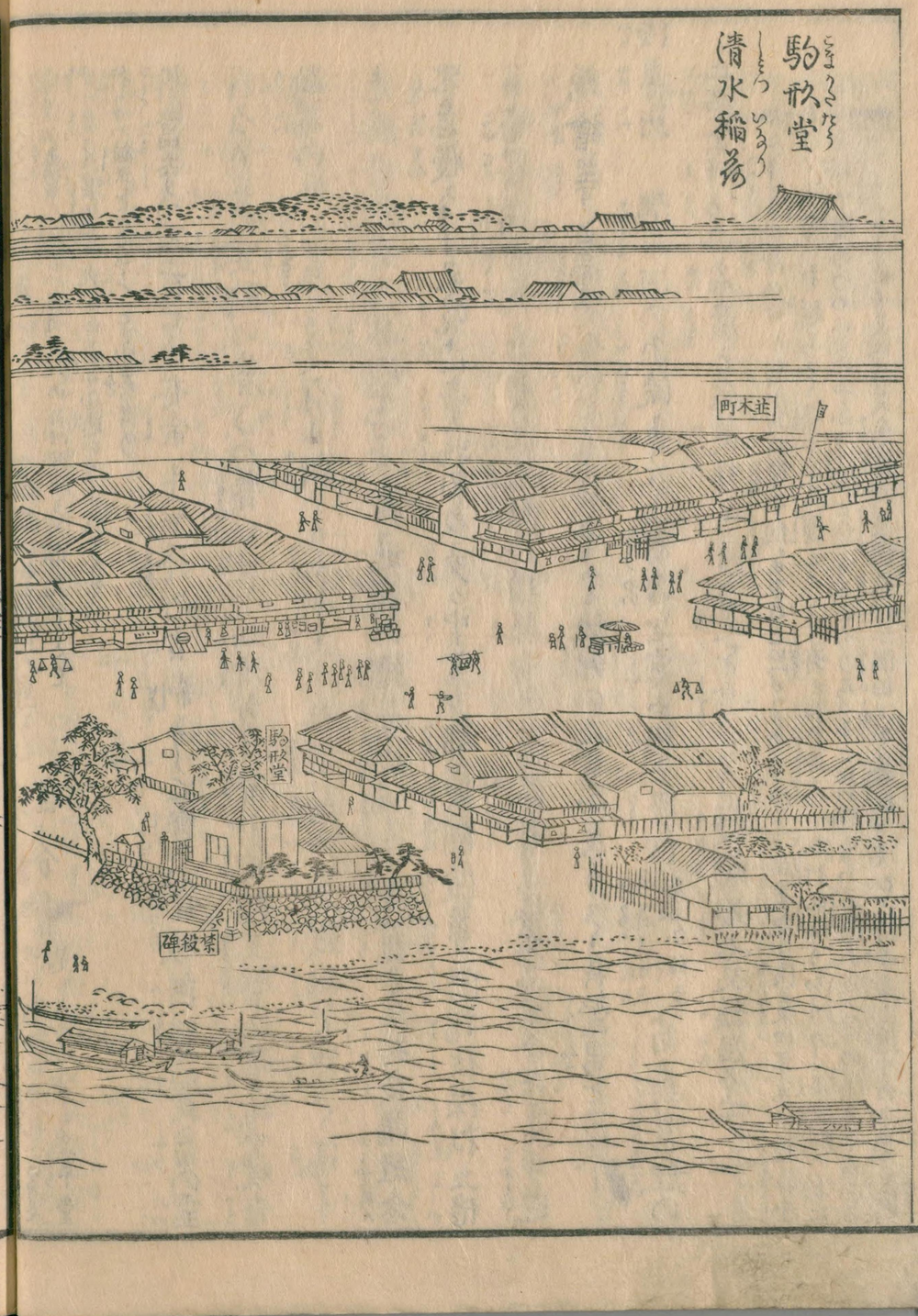
上す其頃相加小田原の城主北条氏綱當国を領〳〵れい破壊の諸堂再

興ありゐく大伽藍とへ 夫より後天文四年乙未八月十八日癸

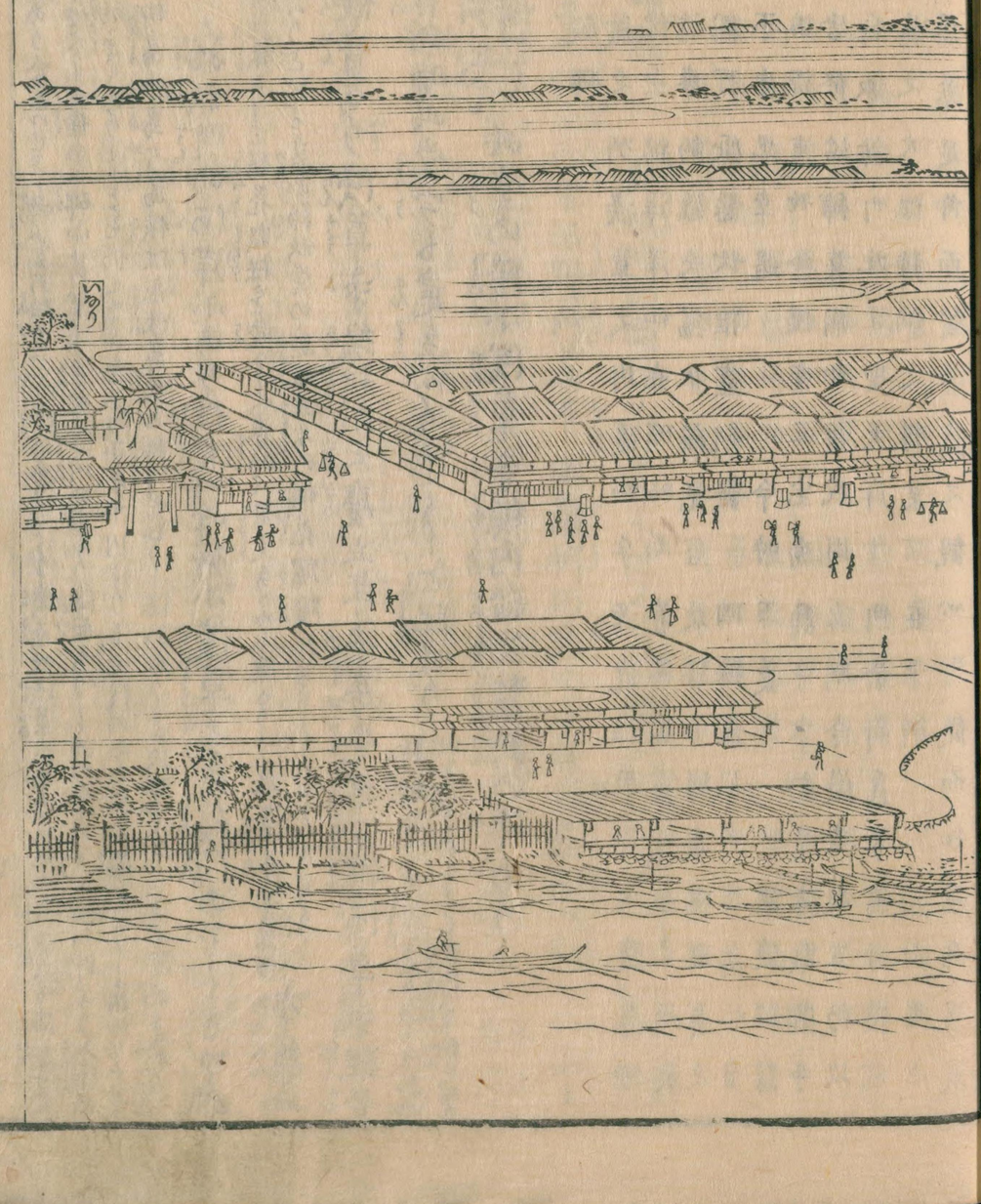
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

文山禅師の遺小冠和年中迫の棟札小武州府越谷大道寺驗行寺是を奉行すとありとぞ
北条氏綱下遠山兵供寺のまるまり又芸州忠海上人とやらん根岳細川律師定禅の赤葉武州金澤の城主伊丹三河守のまるまり三ヶ寺宿願の事ありく未子を改門とし学問せしめ家より別當職を給ふ元禄年中故あつて二寺のつとめ相續もしとぞ
鎌倉へ退居し夫より東殿山小屋を當寺奉守の為小大神君御信仰最厚く依て寺領若干を附せらる延寛永十九年二月十九日
回禄の後も慶安三年庚寅六月三日手斧そめありく堂塔御建立あり
このかた
公より修理を加へられ誠小無雙の霊場となる
一七日の間昼夜祭禮 隔年三月十九日のうらの祭礼は往古四社和光垂迹の神輿を假草の大通りを渡し一銭草橋小
除夜より正月六日小祭 拍板獅子舞あり当日九日己の刻執行す同日三社権現の社前小流鏑馬あり 多羅尼會 同十二日より
一七日の間毎夕追儺あり 牛王加持 十八日小二社の
一七日の間昼夜祭禮 隔年三月十九日のうらの祭礼は往古四社和光垂迹の神輿を假草の大通りを渡し一銭草橋小
温座にて修行す 拍板獅子舞あり当日
那小衆へ帰敷より那小衆へ帰敷より
そうそう僧人来 往古四社の獅子と往古四社の獅子を大森村の辺より猟船を出しかへ
ものいち 同日近在の農夫養を持ち来る雷神門の前
養市 毎年六月十五日執行此日も三月十七日の如く
をよひもち道等の辺小さく是を開く 毎年六月十五日執行此日も三月十七日の如く
神事を執行す此祭礼は鎌倉右府将軍再興 七月十日の夜より泰端群集せり倍小この
日をもつて満ず 千日参 日連師達業師物等すべて當首の賀小
衛小假屋を設け往古より其霊験の著へる事普く世小知所るり當小金鈴玉磬の響絶す焼香
散参の勤行怠る事一朝より夕小至る近参詣の貴賤袖を連ね堂中小参籠して終夜誦経念
区なり其霊験の著へる事普く世小知所るり當小金鈴玉磬の響絶す焼香
抑當寺八千百七十有余年を経の古刹なりて實小日域無雙殿舎回廊
遠近小裏表より往古より毎月三八の日此所小市を立ちと
中小売買其量一ならず言紫小迷ふ程の行客の艘条をいとまなくこぎ小繁昌り
抑當寺八千百七十有余年を経の古刹なりて實小日域無雙殿舎回廊
区なり其霊験の著へる事普く世小知所るり當小金鈴玉磬の響絶す焼香
散参の勤行怠る事一朝より夕小至る近参詣の貴賤袖を連ね堂中小参籠して終夜誦経念
珠更月参の十七日より通夜の縄素堂中小参籠して終夜誦経念
完満す珠更月参の十七日より通夜の縄素堂中小参籠して終夜誦経念
咒怠慢なく又境内賣物の数多き中なも錦袋圓淺草餅揚枝楊枝五倍
咒怠慢なく又境内賣物の数多き中なも錦袋圓淺草餅揚枝楊枝五倍
子茶釜門中名産奉納の草履浮く形の類珠小海草芸名世小芳し手遊
錦繪等を商ふ店軒をならべそそを他邦の人こぞり至りて芸艶昌をきわ
浅草川 隅田河の下流なり古名を宮戸川と呼ぶ 白魚紫鯉の
二品を此川の名産とす美味なり又佳品とす 鰻鱸蜆七又
按小半そう縁起の中小宮戸川の仲小網をひかとこうろうあり源平盛衰記小俊兼に半九月頼朝小
總より武藏へ打越らるく条下小名濱とまります所いにしへ
ろを按小千艘あつめ三日の中小漕渡をつくるとありこうろとよろこ
船もへ未そうとうたり又氏康武藏野記行小隅田河の小善

駒形堂
清水稲荷



此碑
其南



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

さくとあり今あけどもく考ふるに往古の名濱のめぐりより東南此淺草のあさり迄も打寄たる海面あり〳〵る〳〵土俗の口碑に甚むり〳〵卒爾深川のあたりより海面あり〳〵此今の大山の伸より入津の船の目印のおくめり〳〵とそ仍て其考ある小本や川より須田村のあさりを限りとう〳〵南のくるそ寺島柳島牛島大島猿江永代島まと称〳〵てむり〳〵海面あり〳〵とふるよりところとする小さわり

駒形堂　駒形町の内岸にあり往古は此所に淺草寺の總門ありとそ

其頃は左右並木うへ楓花松株を栽〳〵春時は殊更あるめも深しうへ覚永年の本尊は印本東やうとそ書に駒形堂の近辺並木の楓花嫁漫たるよう〳〵をもるもり

馬頭觀音　淺草寺縁起に天慶五年安房守平公雅俗淺草寺觀音堂造営の時此堂守も建立ありよう〳〵を記もり

駒形堂と唱へ地名も此より出る

此堂の傍に淺草寺領内殺生禁断の碑あり

禁殺碑　武藏之州淺草之川遠出乎源近注干海大悲薩埵現像垂跡洋洋如在昭昭而著其爲靈境亦已尚矣然慈事鈞漁夫傷水族寛苔之慘不勝哀愍腥臭之臧固可厭惡伏惟霊刹數回禄蓋以大悲爲此有呼不安也幸遇今時丕業洪運仁慧四海深重物命禮崇三宝菊興寺宇於是去歳闔寺堂舎修治補葺猶如新成因立制令嚴戒殺生乃以南自諏訪町北至聖天岸十町余計爲界鳴呼盛哉好生之大徳種福之勝業一在干斯天恩意足仰而望菩薩之観心可從而知區區愚哀感仰有餘乃爲銘曰

維斯一心　即具三千　以我則乖　以観則圓
鱗介異類　好惡同然　詖恐殘殺　不知哀憐
營生喈味　逮禍取怨　畏報於後　思戒於肯
文明遇時　慈悲如天　綱罟作禁　魚鼈無度
豈徂物命　困慈得全　教化所及　繫習能悛
元禄第六歳次昭陽作噩春三月
武州豊島郡金龍山淺草寺權僧正宣存誌

三島明神社　駒形町の西二丁ほりあり祭神大山祇命一座（伊豫の國風土記に大山積ふくとあり）

土人伝云往古伊野部某本國豫州の地より此武藏國へ赴くの海上まく風波の難に逢仍本國一宮の御神に新に奉りしに忽ち風波の難を免れ安く着岸せしく神恩を報奉らむ為に茅宅の地に勧請あり〳〵由昔より答坂本にあり

元禄年中今の地へ遷さる　其旧地東叡山の東の林鹿根岸村にあり

祭礼は毎歳五月十五日なり

清水稲荷社　駒形町にあり往古嘉祥年中弘法大師東國遊化の折此國へ入ませし頃霊告ありよく如意宝珠を神躰と〳〵稲荷に勧請したまふとそ　其地より清泉涌出る故に清水の名あり其後答中感應まのおとろき法華の勧請とありとそ　彼寺改宗の後東叡山未とめり別當を数行覚といふ旧地の東叡山の西のうへうに寒松院構のうちとある今清水門と号るもの是なり

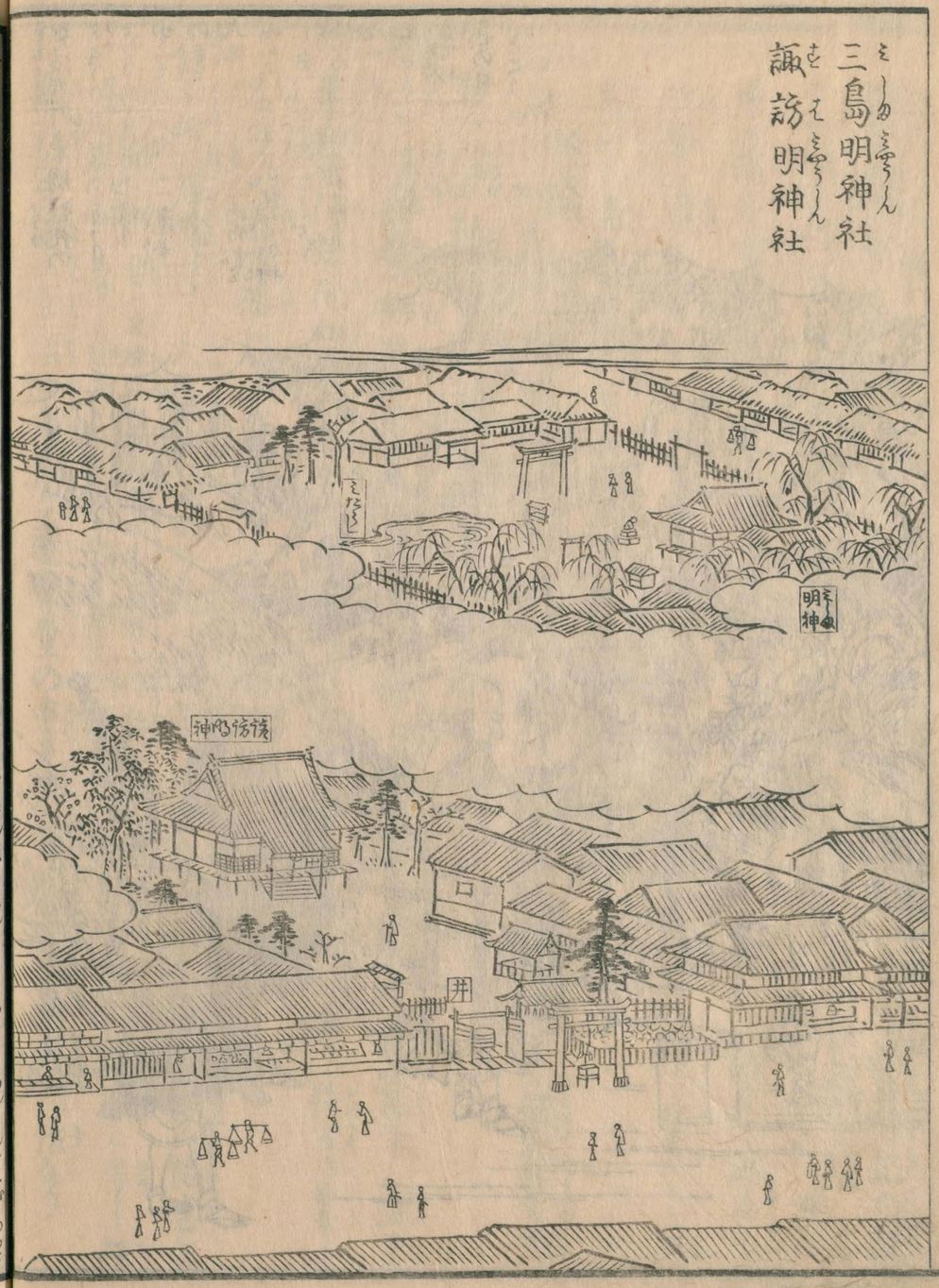
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

弘法大師東國行化の
ときより武藏のくに
ゆきひとつの小坂
のぼるあゆみ一老女
のおもく水桶を運ぶあり
大師深く是をあわれみ
のびたちて其の桶をかり持
しめ給ふ忽然として
清泉涌出せるよし
江戸名所記にしるせり
ひろう今一東叡山
寛永寺院の境内
西の林かげ
ところのほとり
をいう歟

さてあれば縁の源まことに其清水現然として
行道ゆき旅人と称する此の谷合より流出いつる清水ありこれを
小弘法大師東國遊化の砌武藏國まで
ゆき頃老女の水桶を戴て行あり大師彼の水をもとめ給ふ時老女のいわく此辺り
水乏く遠く是を汲由もうしわれ大師憐を獨鈷を以て加持し給ひたまひなんと
其所に清泉涌出せり當社を勧請し奉るとなん
諏訪明神社　同所詰汐町にあり祭神は信州の諏訪に同く健御名方命
なるを當社の権輿に至て久遠なりて未由等詳ならず
椙寺　同所黒船町にあり浄土宗にて増上寺に屬す此中山正覚寺と號す
本尊は弥陀如来の恵心僧都の作なり
名ある大木の椙なり故に号とせり
名清水正八幡宮　大倉前にあり元禄五年
昔は文殊院の八幡と称し高野山行人坂の僧住職
勧請せり　別當を大護院と号し雄
徳山と云冠山幸沼法印なり護摩堂の本尊は立木明王なりと運慶の作なり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

三島明神社
諏訪明神社



閻魔堂　八幡宮より南の方弐三丁を隔つ称光山長延寺と号ふ本尊閻羅王
の運慶の作なり其丈壹丈六尺あり額小閻王殿となるい延享年中未聘韓
人の筆なり當寺弘覚大師草創ありしと時昔ハ野囲ふありしを文永年
中此地へ迁すとこ或説ふ昔の霞う宝ふありしを囲初の頃る貧阿ハ
うさされ後後いまの地へひろくとうつり
諸群集す

奪衣婆像　運慶の作なり本尊
閻王と同おろとうろ

化馬地蔵尊　昔ハ徳おるの作昔ハ紀の那智山ふありしとそ
昔俳吉を俳傍ぜしより是を化度ぜんろおふ
るに化しく彼女を佛道ふ
帰入ろめのふしとうん

弘山観世音　弘山院深く観音薩埵をそ信しあひ嵯峨の普門品大悲
佛眼上人そして庶眼供養ろめ法皇ろうろう親音の
ぜひしそ像うり故あつて東叡山よりそ小様しを奉る是則及佛の権垂ろり當寺境内よ文永十一年の
古墳
あて

毎歳四月七日六
祇園社　同所閻魔堂の南ふ隣る當社牛頭天王ハ天暦年中の鎮座ありとそ
大倉前の總鎮守ふして別當を大円寺と号
十王堂　境内ふあり慶長十八年又寛文ふ御建立あり
銀杏八幡宮　同所福井町よあり傳く云當社ハ永萇六年源頼義朝臣同

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

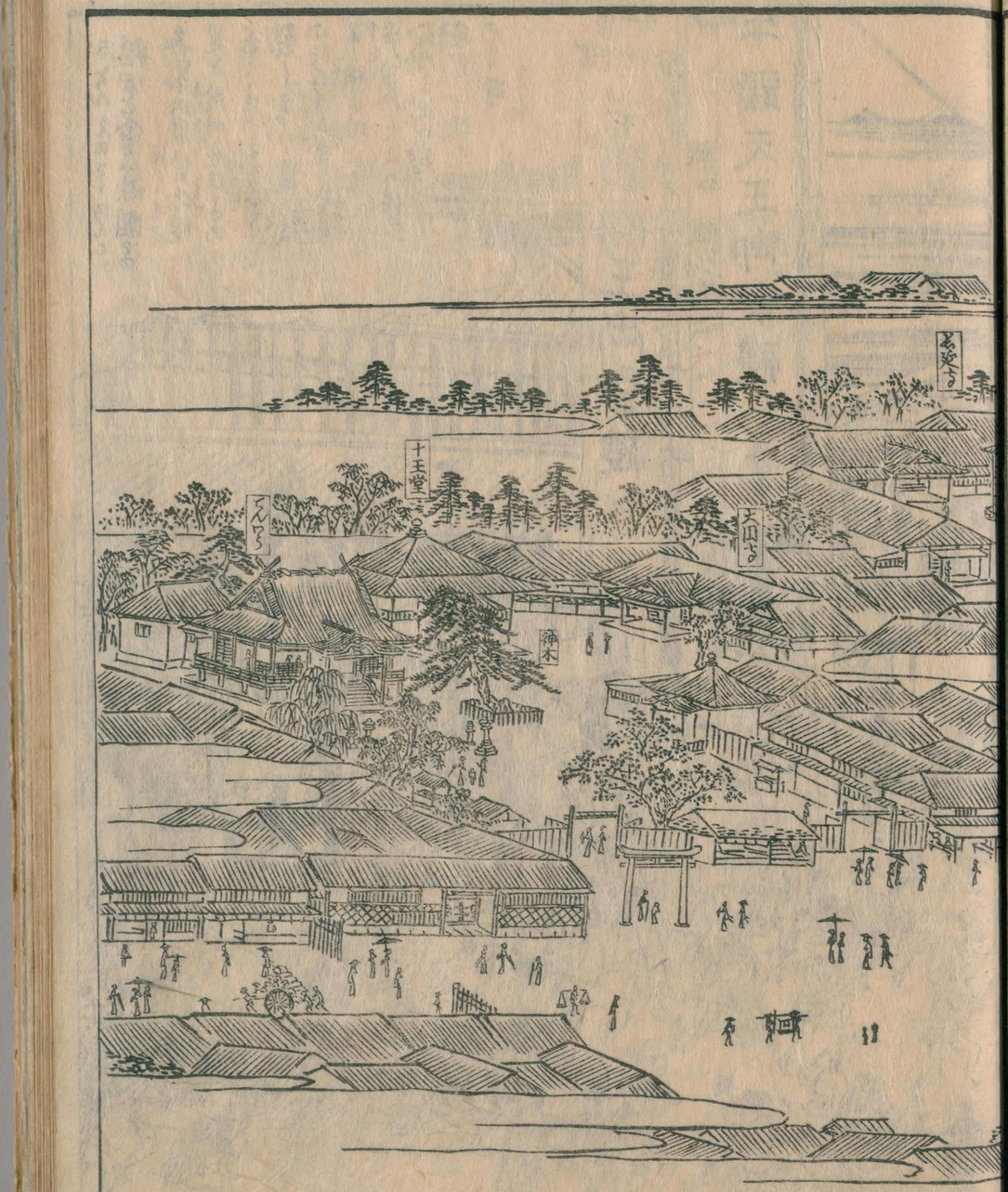
正覚寺
一名椎森寺
八幡宮

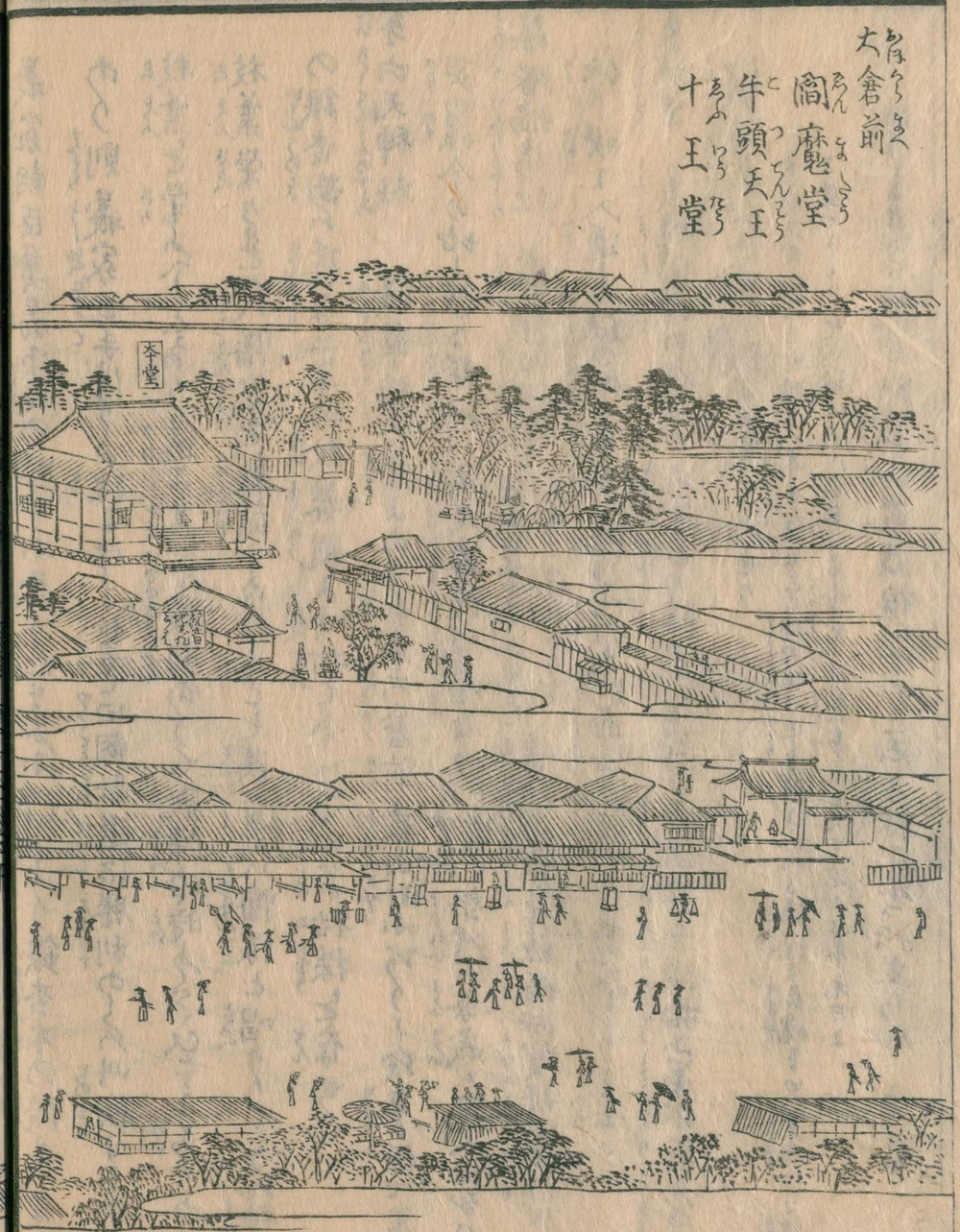
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

御厩河岸渡

義家朝臣奥州征伐の時この所より上り給ふ
あり則義家公手ずから地より出て誓て曰朝敵退治勝利あらば此樹すべからく
枝葉を栄よべしとのり遂に其軍勝利あり凱陣の時あらためてこれをみるに
枝葉栄ること八幡宮を勧請しかば
の銀杏樹も延享二年の秋暴風に吹折て今はつゝふ其枯株を存せり
等古天神社　浅草橋の外よりも昔は大倉前森田町にうつし祝享保に年火
災の後今の地へ移る祭神菅面足尊惶根尊なり　天神六柱の神なり　祭礼は毎歳六月廿五日なり
篠塚稲荷社　當社の旧社なり　昔新田家臣篠塚伊賀守當社を信
仰し暁より入道して社の側に庵室を結びて住せしかば
弁慶橋　多越明神の辺より大倉前の辺まで
江戸名所の内を領するをもて名とせり　記せり
竟恵北囿紀行に文明十八年十二月廿二日隅田河の辺を越といへる海村を名遣よめる歌ありて彼宅
よりも猶北の方にあるものなれば今の弁慶橋ならんと云ふ説は非なるべし
おさまるる世をかけてや荒波根の
竟恵

大舎前
観音堂
牛頭天王
十王堂





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

牛頭天王御祭禮

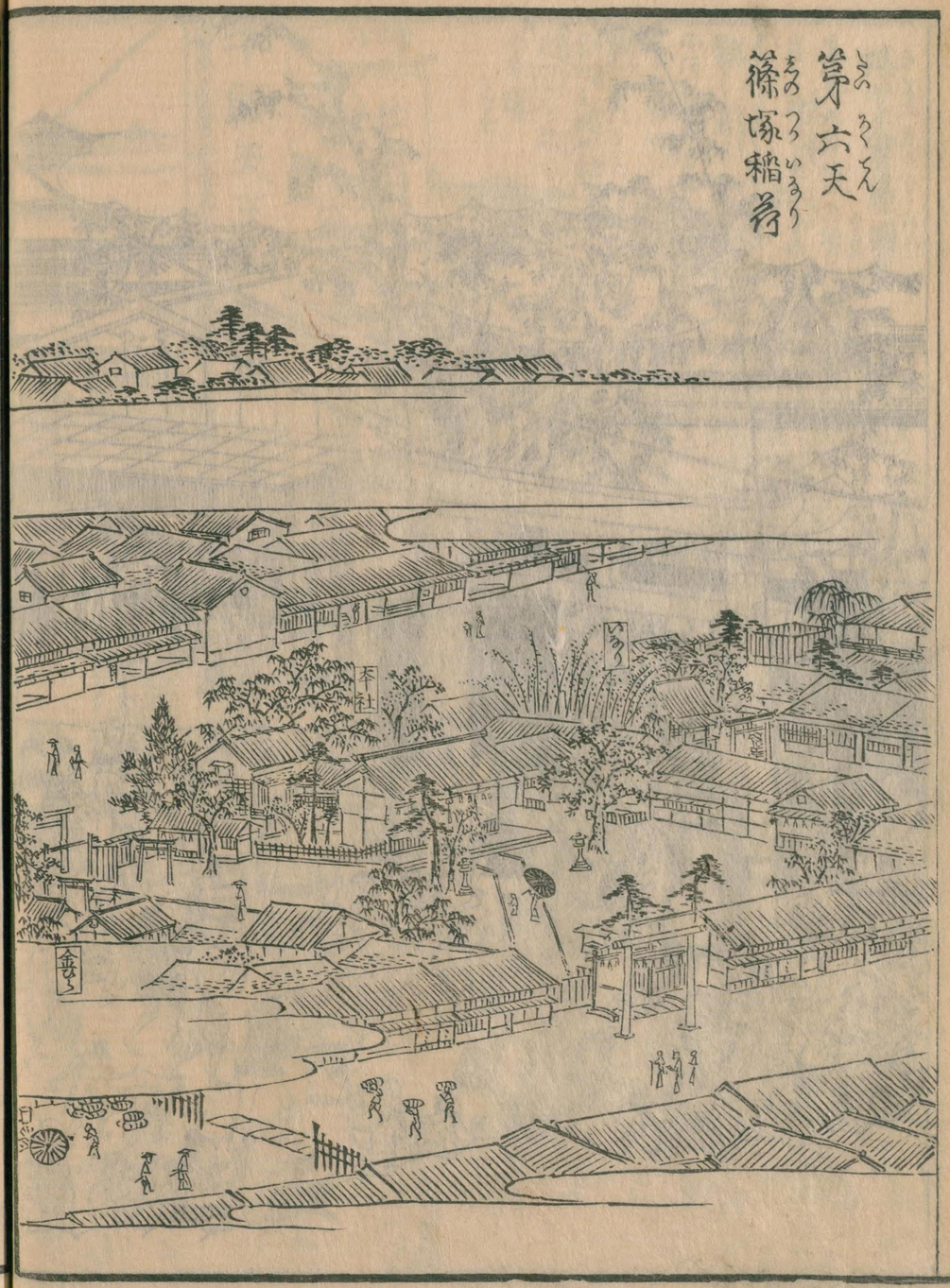
氏子中

牛頭天王御祭禮

きちんえのさたんこ
祇園を會篠園子
毎歳六月八日の曉
是を修ふと氏子の
おくそくくさみと
製し惡く篠の枝
小にけく是を宝前
に供へ祈る諸人
拿ひこれをとり洒て
家内に收め疫
疫気を除く
のすま護
とそ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用



暮ふりや四ツの川くといそく日ふれも寝ふ行鳥越乃里　道真准后

鳥越明神社　元鳥越町よあり此邉の産土神とす祭神日本武尊相殿天児屋根命なり　昔ハ第六天神熟田明神を合せ奉りしが用のなふ名上られ三峯まつり智地をあひわけふ社の地ちかうを残さるその頃天ハ轟田町へうつし第六当社ハ最古跡なれとも舊記等散失して勧請の年暦未由緒詳ならすといへり祭禮ハ隔年六月九日なり

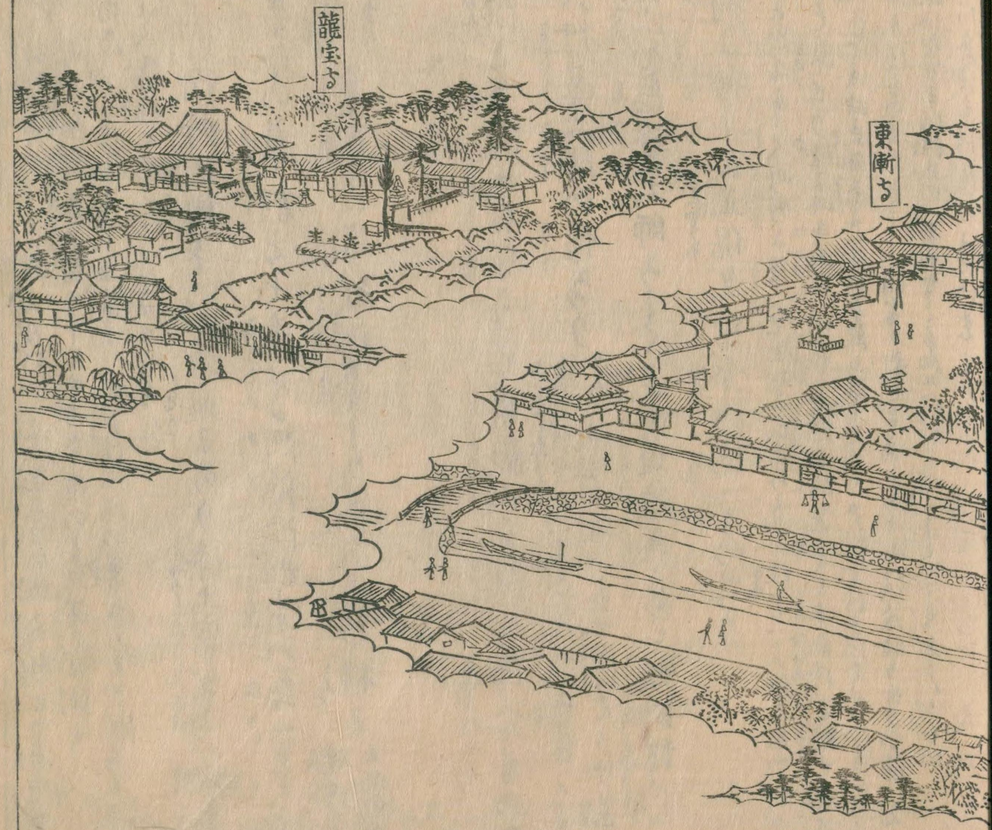
東光山西福寺　良雲院と号ふ　良雲院殿御尊骸を学ふ葬ふ奉る故よ院号ともと学ふ　鳥越明神御墓所あり

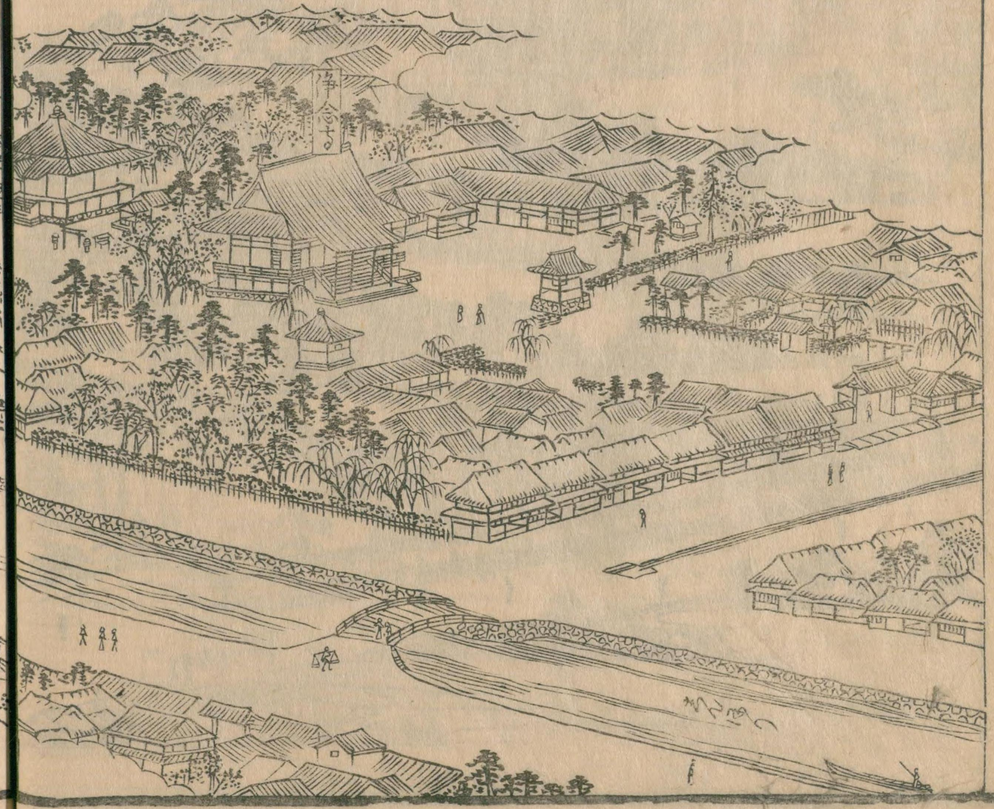
より三町ほとを東の方ふあり江戸浄宗四ヶ寺の随一ふして本尊阿弥陀如来ハ安阿弥の作なり　三ヵ加ようう冠山を真蓮社貞誉了傳上人と号ふ此比寂を遠ヵ加屋ふ別戦死の迷魂得脱の師なり　迷亀得脱の功ハ武父の戦功小等しふ其功を永世よ傳へんと　神祖　松平の御称号英山号等をあふ往古三ヵ加ふありしを慶長の頃　台命よ依て学問院後河墓小移されし又寛永十五年今の所よて地を九ヶ一芝中法幢を立檀林小准ら

さゝい
西福寺

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

新增場
淨念寺
東漸寺
龍寶寺





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

東照大権現宮神影　神徳共に　良雲尼公の御壽影をもあり　其よ三軸あり各歳四月十七日法会礼諸人よ拝ら　仁島弁財天祠　當寺の鎮守なり本尊画像ともそ弘法大師の筆ありといつり　称讃浄土慈徳あるとそ小女ども　化用山常照院浄念寺　因叫西福寺の北の通よあり　浄土宗冠山の性誉上人　露休和尚ともそ永禄年中の草創とそ　作り収の尊像と称也胎中小鑿　寛永十二年駿河臺より今の地小移る　鋸等を入収む其長二尺二三寸あり　観音勢至両菩薩の天神等を安置　大師の作乃　清唐の天神等を安置

正保山東漸寺　醫王院と号く天台宗よ　あり本尊薬師如来行基大師の作る　小十二神将の像と並世　称ある者り那ともそ　冠山ハ慈覚大師ともそ　小女ども供するの茶あり　書写性空上人常小護持の霊像ともそ脇士

手向野　寛文の比戸田茂睡といる者人此所よ草庵をむすびしより住ともそ伊右衛門なるもの　天和二年十八軒ともそ草ぢり故よ此手向野と称ふ　記也芸地八回和金話まの境内はして戌亥吏婦等ともそ一本伊吹　一本ふもとの　と称る町東陽るの境内あり諸書小載せ東陽るの　或人云ふ近古ハ東海道ともそ一所深坂なりともそ往来の人番苑ともそ　風の吉乃ともそ此所よ休ち休絶ぬ事法是ともそ

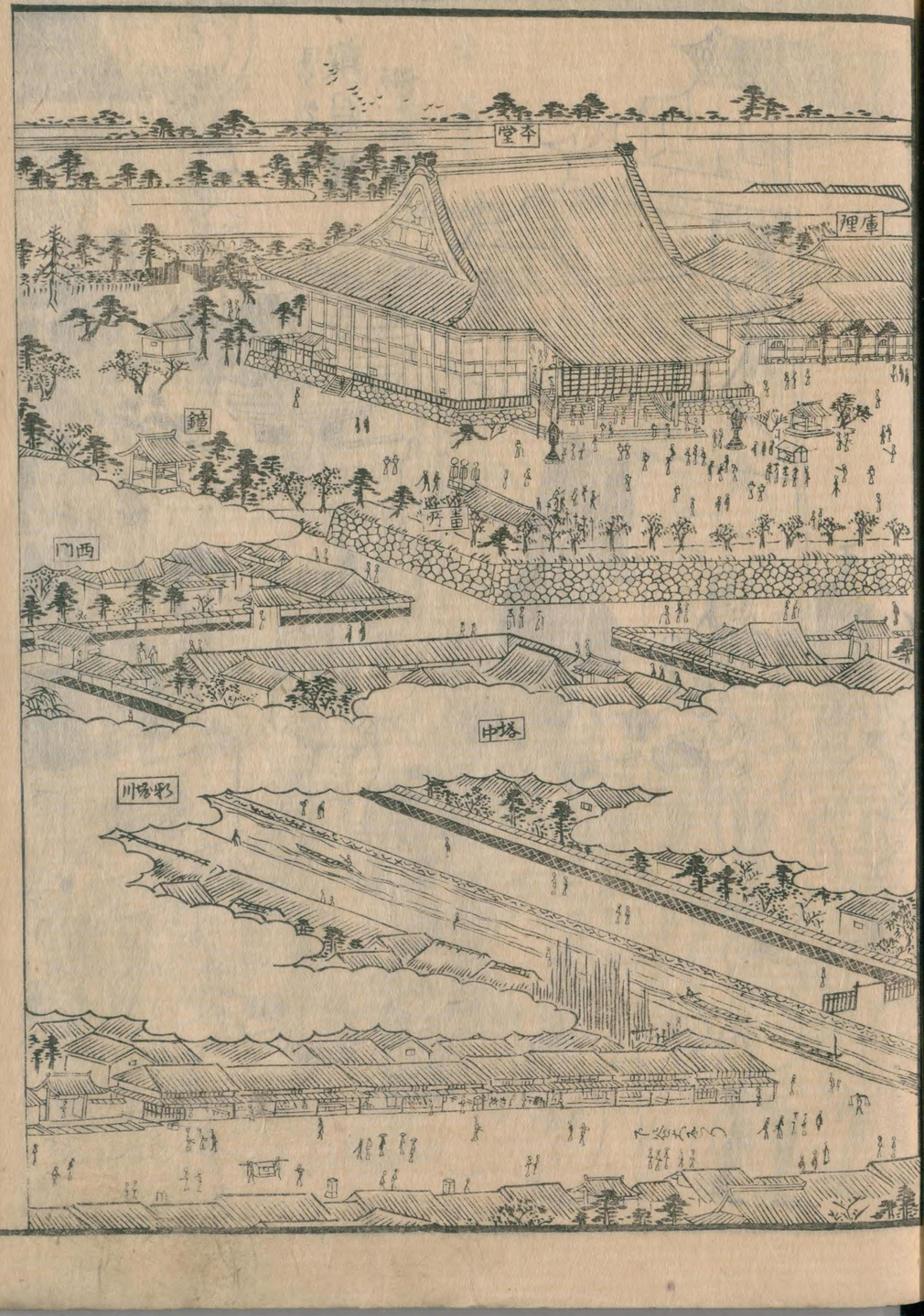
茂睡

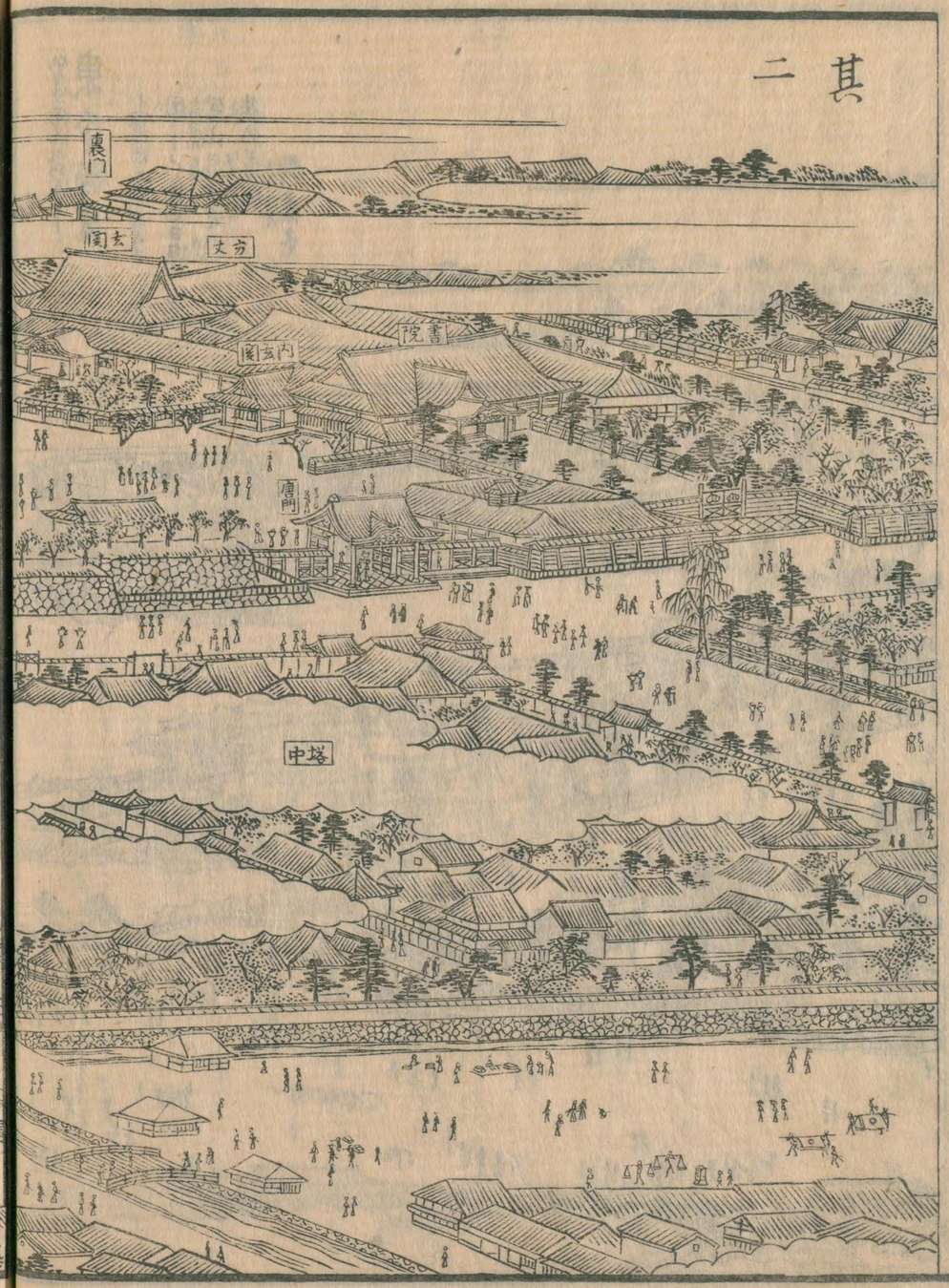
後小神田芝崎村よ移ともそ又正保年中今の地へうつせり

東本願寺

十月廿二日より　因ともそ一くせ七日迄　冠山忌ともそ　徒の道俗　群参也

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

報恩講
俗よび御講といふ

今等
うり
けさせる
そしや
お
霜月

西山宗因

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

報恩寺

東本願寺

新堀端大通ふあり冥山教如上人其先本山の住職たるを豊臣家のそかゝひとそ順如上人教如上人の舎弟〳〵を本寺の門跡小定めらる教如上人をゝ故ありて退隠せしめ裏屋舗小亜れ〳〵を叫故よ東門跡を裏方といふ神祖意ふ召出され冥祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の未そ新よ御堂屋舗改ゝ〳〵賜る夫より後東西とつかる。

一宇仮建〳〵京都よりの輪番呼とるりいわ中の門徒を勧化す其後江戸よ未ま建立あり家中其の祝介日本橋の外加賀屋敷と唱る所ニ明暦の後今の地ふ移されり近く則神田ふ〳〵ま地を賜領す

砌旅館とるる

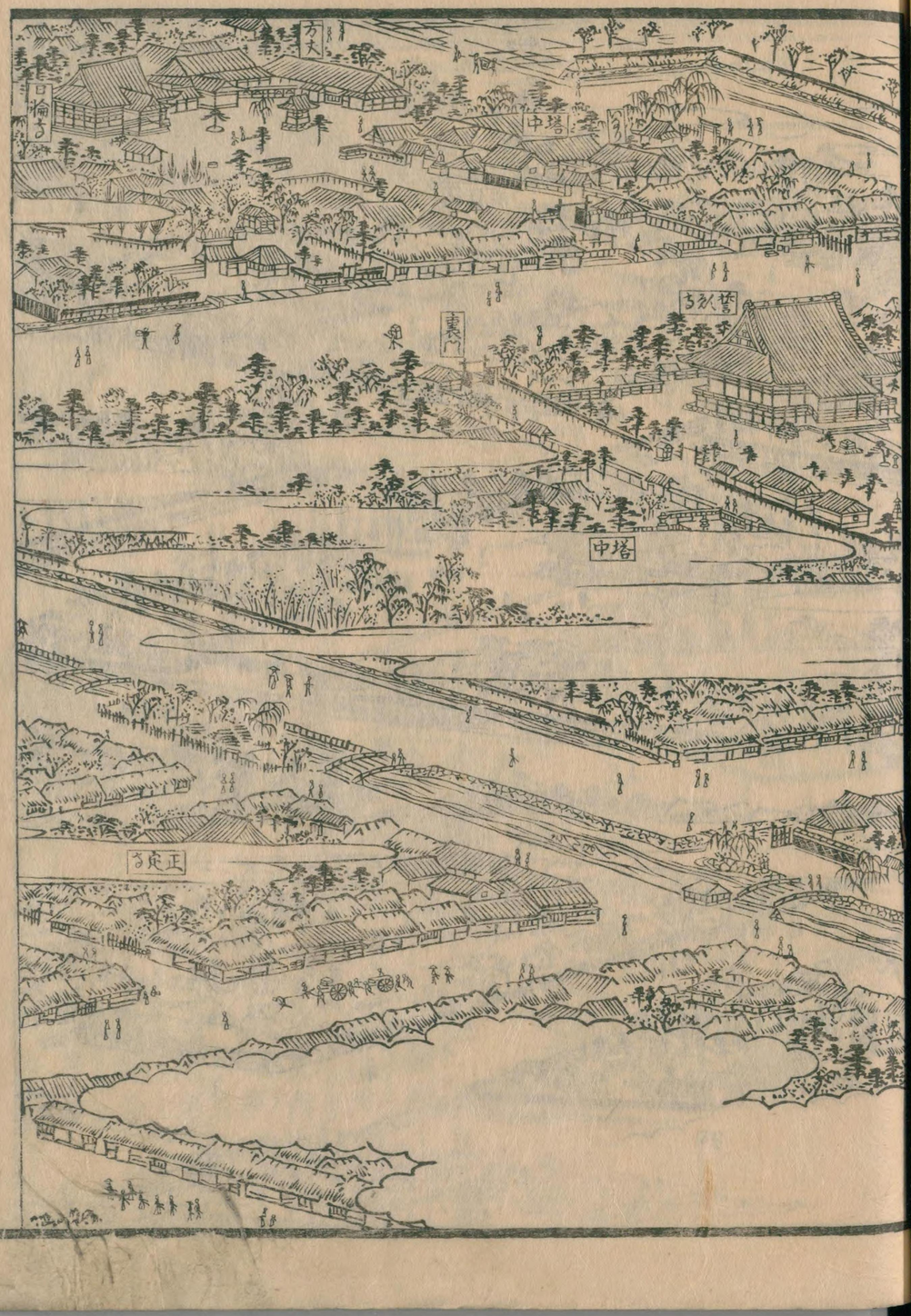
五条念仏 毎年七月七日裏行ゝ

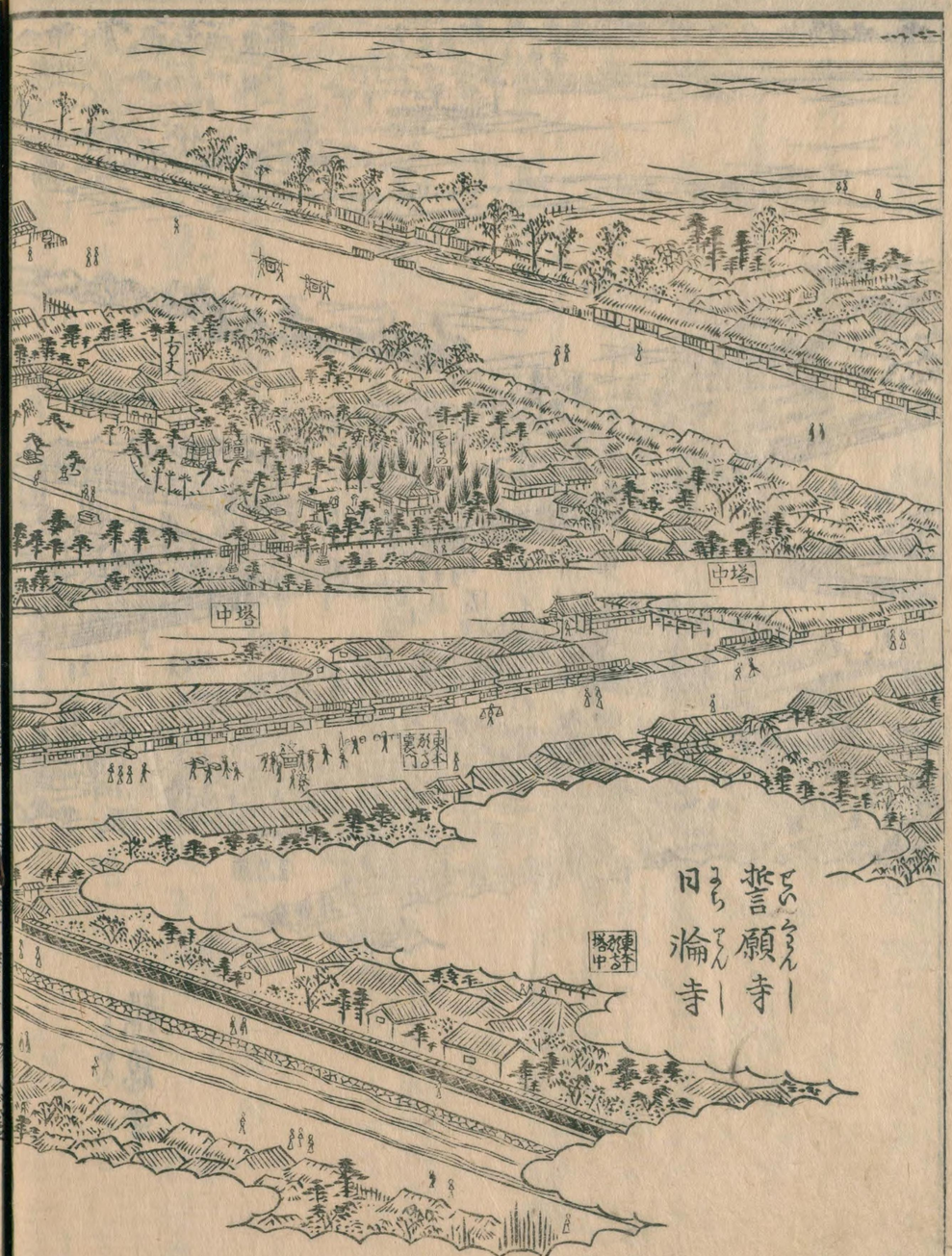
門徒の貢賦 毎年十月廿三日より同廿八日ま〳〵の間續狂說法等あり

群参ぜり 倍ふ是を御講と称す一ゟ報恩講ともいふそのあら〳〵

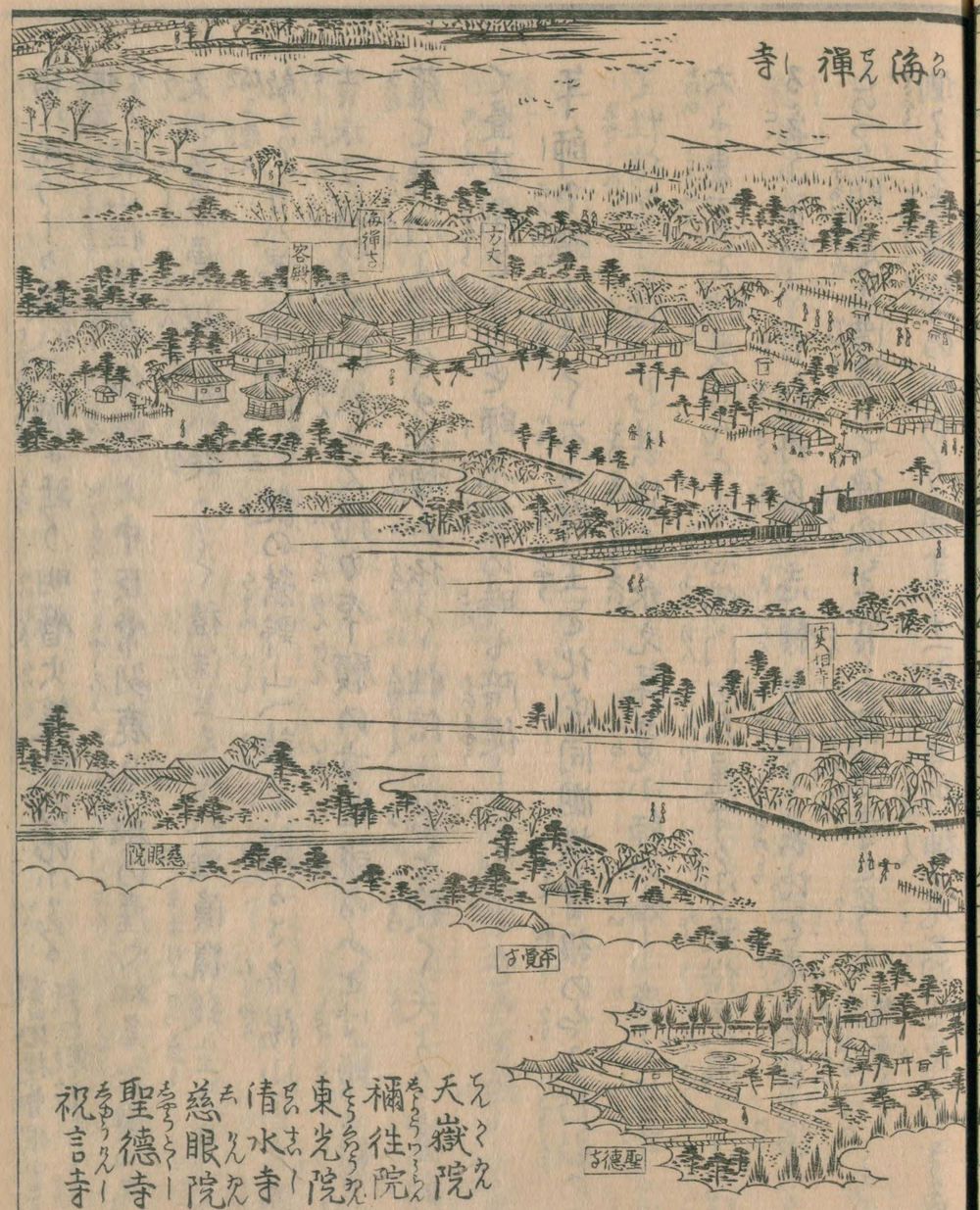
高龍山報恩寺 謝徳院と号ゝ東本願寺の東ふ隣る一向派〳〵て宗祖上人の遺跡二十四輩所の随一るり當まゝ〳〵總國豊田の左横曽根よ有ゟ數十世後結城の城主七郎左衛門晴朝の臣多賀谷何某とゝるる者の為よ寺領を押領ちゝ〳〵終ゝ〳〵武刕よ移ゝ様

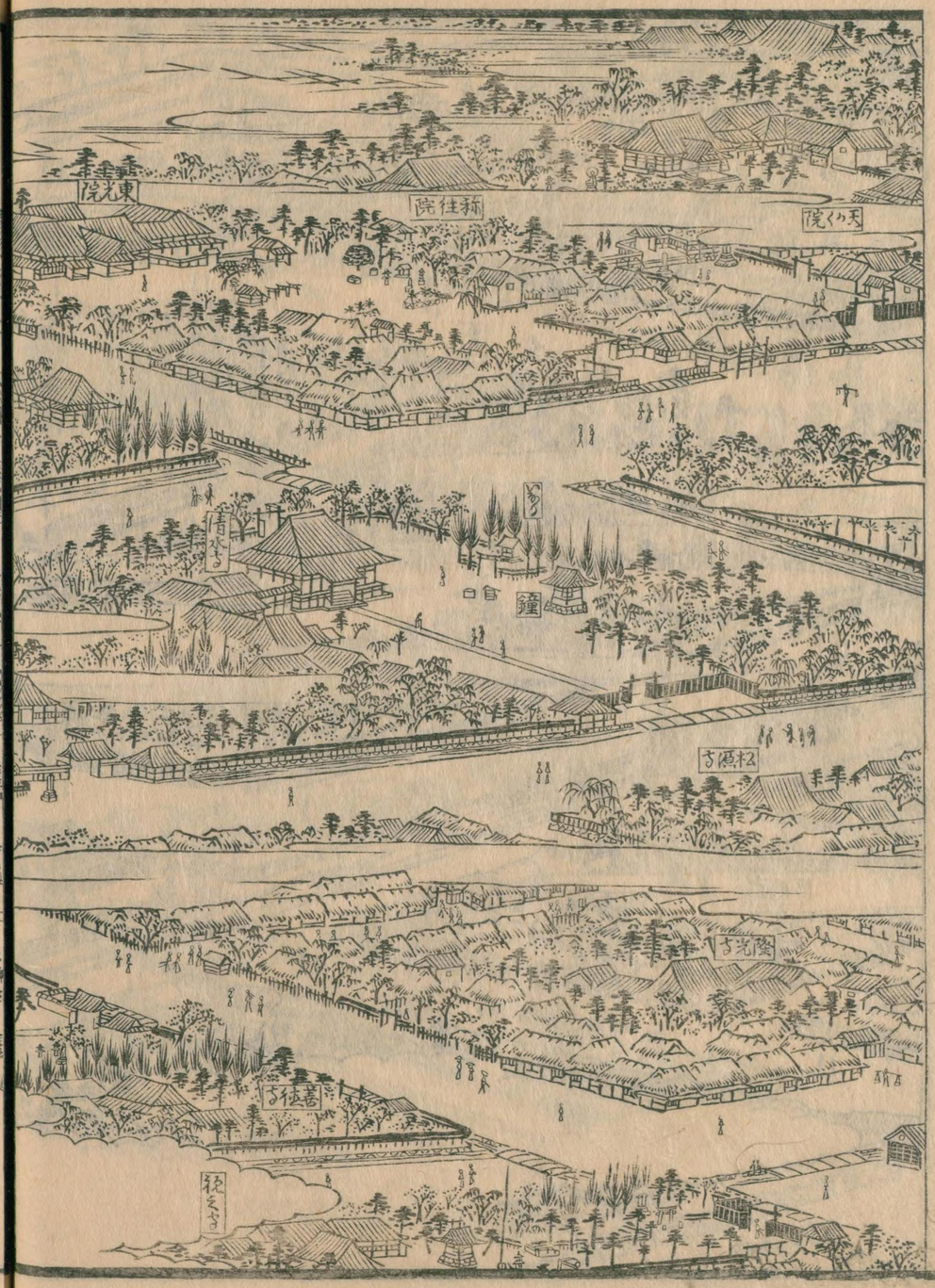
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

田小あり〳〵ら後八丁堀より迁り明暦火後今の地ふるる
猶存 舊地樓曽根ふるく名を與四郎といふ
ちり 宍山性信房俗姓は大中臣常則鹿島
天性多力勇悍心狼戾みづから禮法をもちゐず唯漁猟殺生を事とするのみ
鄰よ悪ム 十八年の春 紀の熊野山へ詣でく歸るさ洛陽小ふるり適東山
吉水より玖ひ〳〵法然上人化力卒願の貴を説あるを聞頭を
薙て佛門にいらんことを願ふ依て性信と名を授く夫より鸞師に隨
て昼夜側をさらず師左遷の時も陪従して凡二十五年を経たり建保二
年師小總より往〳〵太よ群生を化せ同國横曽根のなよ朽敗の古刹あ
を性信をして住しむ其後貞永元年竟小師の命小應〳〵彼地よ逗つく
太よ東冥を化度せんと一念佛門を弘通するに道俗完満〳〵場小溢
るるをひろく古刹再興の志願を企くも其地を求ること能ず飯沼
といふり則是を湮埋して佛閣を営み報恩寺と号す 則當寺の
側ら天満神の祠あり同年十一月七日此神老翁と化して
夢小告〳〵曰く是より後永く師資の禮講となして御名洗の鯉魚を
報恩寺よ贈るへしとぞ依鯉魚二喉を捕て師小贈る師も又曼を謝ちんが為神
前小鏡餅二枚を供せ 此時紫の戸帳一重を裳裾の料まるる
画上ら詳ならず 竟建治元年七月十七日下總ふるひく寂を示せ化壽八十九
寺寶 親鸞上人壽像 又天福元年正月十日此神何
彫刻あり て性信よあらられ〳〵 を掛まを持〳〵たよ殊ねを持〳〵たよ殊ねと云ふ未年性信坊洛陽小ふるる自
六十二歳の影像ありとぞり 五色佛舎利 卒尊す名號 同宗祖上人
幸なり 同九字名號 同宗祖上人 珠數一連 親
の眞蹟あり 夢想よ依く奥州土陽 の眞蹟あり 貞永元
去生骨 山中よ得ふるところの枯骨さ 教行信證一部六巻 年上人帰洛のとき性信坊〳〵附
屬あり〳〵とぞ今猶 親鸞上人の眞蹟あり 長六寸ち彼平の作とも又いふ所戒の作ともいふり性信坊傳曽
當寺よ伝へくあり 蛇反釵 根の古院よ住ふる頃其院よ悪龍すむて潮しもまれの害をこのむり
性信是ぞ退ふんとまるよかれ〳〵空く年月をふらり扨
熟睡を時よ池中ふり悪龍出く彼僧を呑んとせるよ懐中ふりす釵花出く彼悪龍を防く又

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

出門の金剛力士ゟ足ばゝく悪龍を作中ゟ踏出ゟ（後草まの山門ゟ画像ゟ）
鼓を踏ゟ往てくゟゟ金剛力士の足元ゟ土ゟ湧ゟ湧ゟ湧

傍に一宇の草庵を結び芝崎道場と号す 權輿 其後あまたの星霜を
経て慶長年中神田明神の殿門臺へ迁され當寺の柳原のほとりを
賜ふ又明暦の頃今の地に移る 寺傳に往古より神田明神祭禮執行の時は當寺より上人以下衆僧等社頭に參りて誦経念佛等種々の作法ありそ後神輿を渡しまいらせ當寺住職其門上人は新嘗御連衆にて御連衆にも
光明山天嶽院 遍照寺と号す 日輪寺の西に隣る浄社の法嵓にて天正
年中善空上人草創を発し山は圓蓮社滿譽上人と号す 本尊手嶋觀世
音菩薩は唐佛にて順徳帝建保年中相州鎌倉鶴岡の社僧良真傍都
入宋の時盲王山能仁寺より將来せるそ像なり 像を其後豊左閤の幕下
津田勝重となる者此像を感得を息え重伊賀國手島と云所より須此
霊像の告によりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ必依人民伏して
ま島殿と称を其後え重當國に遷され須故ありて當寺に收むと則ち
内ま島え重の墳墓あり當寺舊は淺草橋のほとりにあり 明暦
田禄の後此地に移る

一心山禰往院 同西に隣る捨世寺と号を浄土宗にて本尊阿弥陀
如来は丈六の座像にて恵心僧都の作なり脇に観音勢至の二菩薩を
安置す 宍山は幡蓮社白譽称往上人 姓八設田氏下総の野州
よりの慶長年中當國へ移され湯島に地を賜ふ後後今の地に小
庵を引き 捨世一流 常行念佛の道場にて殊勝なり 當寺より四光大師
月影の御影あり
薬王山東光院 同く西に隣る醫王寺と号を天台宗にて東叡山に屬す本
尊瑠璃光如来の像は佛立春日の作なり 伝云慈覚大師當寺を草創
ありしとそ往古は顯密二教ともに弘まりて台宗一百八箇寺の總本寺たり
中古右内道潅此霊像を崇敬し江城の鬼門に置又其後慶長年中日光
御門主一品尊敦法親王山門より動寺の松林坊賢海法印を仰て再興ま
む
神祖其昭院主に命ありて江城長久の御祈禱として正五九月小大般若経轉
讀せしめらる 今も此寺御殿おとり慶長の頃近の常盤橋の北にあり其後小傳馬町に移る其地
を授ちら明暦田禄の後なり

建長二年の秋
性信坊爰想ふ
よもつくさつかう過去
生の枯骨の不安を
さとり奥州信夫郡
土湯山より五里外よ一の
猟人あり師云く
此松わよ我過去生の
枯骨あり汝
是を埋く
得させへと
猟人云く
我業を
みさるれわ
明日の糧
ぬ〜とく
さふ貴の
を彼く性
信坊猟者ろ

特ところの
竹箭をとろて
石上よ投すれわ
甚箭をのれと
發〜一鹿を射ろ
師則是をあくろ
猟人発るひく甚た
あくさを悟り恵ろ
松ノを穿ち既あく
枯骨を得られ性
信坊歓喜踊躍
竟よ甚地を斜て
一の精金ろを営ろ
号ク法得ま
とへいひ
ろる

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

大雄山海禅寺　同所新堀の小川を隔て西の方よあり公寺派の禅宗
にて江戸四箇寺の一なり往古平親王将門總州相馬郡よあらく草創
する所の佛刹なりされと将門亡るの後年を歴て荒廃よをよびされり狐
兎の栖となりしを慶長の頃覚印和尚再興して寺を江府陽島の地小
梁威僧正と相謀て堂宇を修営し昔よ復ちむ

上宮太子堂　同所本寺堂坤の方よあり

浄土宗にて本尊聖徳太子像の御自作なりとぞ
天皇御悩の時をる神明佛陀よ祈誓したもふ至孝の誠を擢んでより御悩悉
く愈ちまつらく許賞のたまふ自ら作りたまふそのの御年十六歳の御影像なりとそ

上人念佛弘通の為此霊像を守り奉りて実東よ下り根澤よ一宇の
精舎を建立を　又房総よ作り御堂内吹上と称ふ八其間比叡
祐和尚中興して台宗を改めて浄家となし慶長の頃馬喰町馬場の辺小
移されり明暦の後今の地よ引地ちり当寺門の内よ地蔵尊の石像あ
り　相伝一澤木食弾誓上人の作にて当山十七世の住侶霊告ありて
その御首を得たり仍て石工よ命じて全軀を補造ちめ其の背面よ件の肯綮を鐫す

除厄安全堂　同所北の方浄土宗天徳山慈眼院よ安置を徳ちまつる四十
二番の御時除厄の為自彫刻しめし霊像なりといつり
当寺普ハ神田橋本門の辺ふあ
し明暦回禄の時本堂を失ふ依住僧徳誉上人深く是を悲み霊告を
得しより再ひらく安置ちむとて
萬年山視言寺　同所南の方通を隔て西南の方よあり曹洞派の禅宗

小安置す傳云往古元徳南禪寺の善門禪師夢中日天子を信敬し一朝月輪の中より二菩薩の尊影を拜を依て自筆をとりて親昌を摸し奉り靈告ありしより弘長元年辛酉六月遷よりて東より豆州伊東小湊より同六日日蓮上人より謁し彼二尊の霊眼を乞求むれば上人莞眼供養あつて花押を添らる又禪師深上人の徳澤を慕のなり大士自肖像を造りて禪師のもとより贈らるの像是なり　禪師歸寂の後京師要法寺より又妙榮寺より安置ちかなあつて文禄三年の頃當寺より迁ちり

神田山幡隨意院　新知恩寺と号す淨家十八檀林の一室なり本堂の左よあり傍より碑

尊阿弥陀如来の安阿弥の作なり　妙龍水

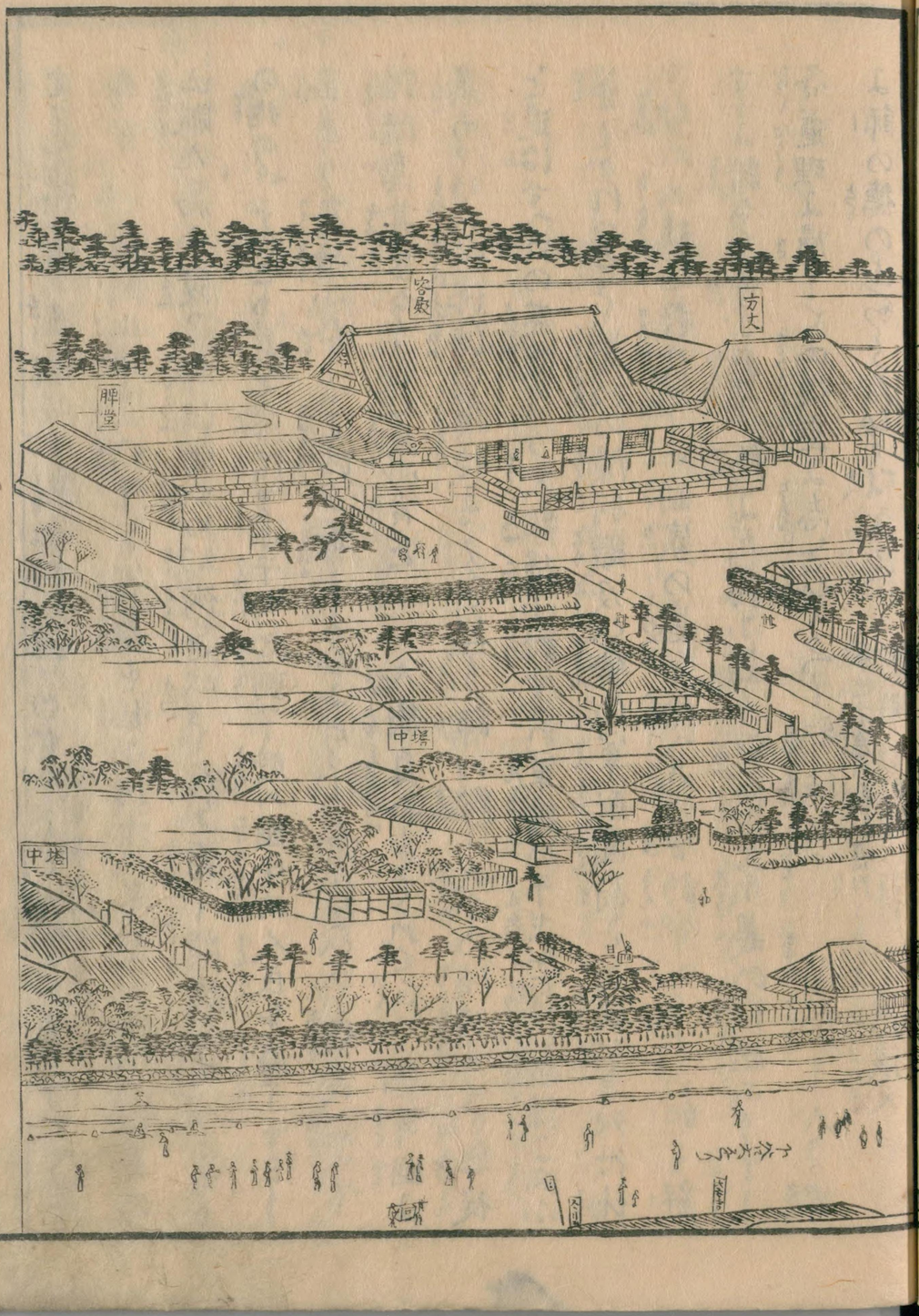
小安置す傳云往古元徳南禪寺の善門禪師夢中日天子を信敬し一朝月輪の中より二菩薩の尊影を拜を依て自筆をとりて親昌を摸し奉り靈告ありしより弘長元年辛酉六月遷よりて東より豆州伊東小湊より同六日日蓮上人より謁し彼二尊の霊眼を乞求むれば上人莞眼供養あつて花押を添らる又禪師深上人の徳澤を慕のなり大士自肖像を造りて禪師のもとより贈らるの像是なり　禪師歸寂の後京師要法寺より又妙榮寺より安置ちかなあつて文禄三年の頃當寺より迁ちり

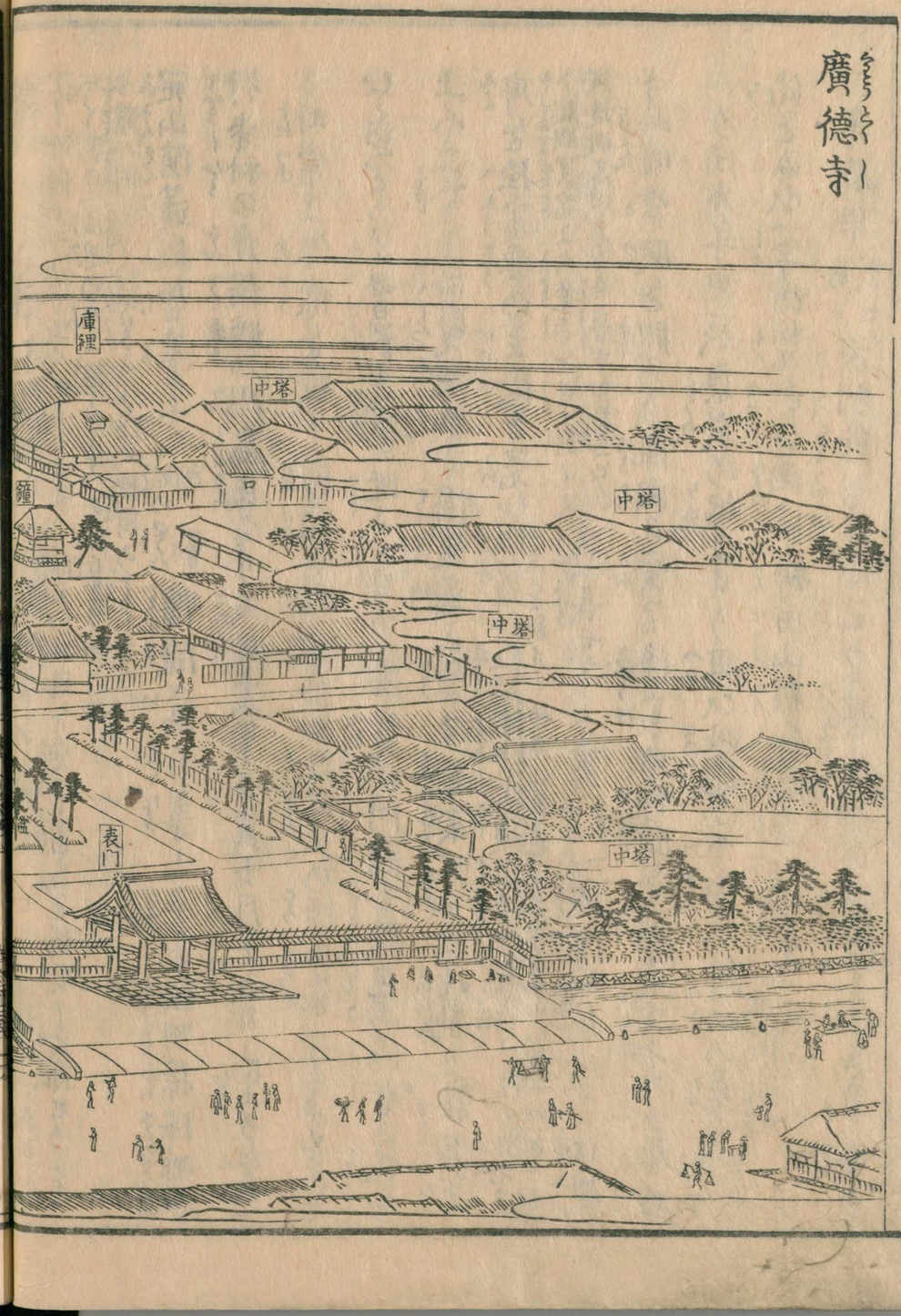
神田山幡隨意院　新知恩寺と号す淨家十八檀林の一室なり本堂の左よあり傍より碑

尊阿弥陀如来の安阿弥の作なり　妙龍水

山幡隨意上人天正十年の秋越後國高田の善導寺より江戸淺草の邊視言村とのうつりすみ天正十八年の頃を因道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此地より遷されし日蓮大菩薩　同所新寺町より半丁ほど西南のかたにあり安立山長遠寺と号す

廣徳寺





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

とを轉〳〵精舍とし舊名を号く台爺よろづ金銀の裝束を用十六年辛亥 歳七十 勢州山田小入門寺を定基を始小同十八年癸丑 歳七十二 蠻夷の凶賊九州小發し邪法を弘め幻術を以〳〵人を惑し頻國を傾んとするの北めりされども曼を平治する小干戈を動す時ハ國中の人民を驚小するを以〳〵高僧小命し正法を道ずしめむよろ〳〵ふをひろく衆義一致〳〵

大樹自命ら〵れてこゝに吾軍國よ幡隨意其器ありとて直小召し患ある時ハ必佛法の護持ようといふり師ハ既よ天下の法將ようとして邪徒を退治すべの英雄あり又邪徒小對するの軍將の干戈を揮ひ敵陳よ向小等〳〵れいとく蜀江の陳羽織及び金の軍配團扇とを賜ひ急ぎ彼地小赴べ凶徒を教化ちめ國家の患を除くきの旨鈞命ありしの師も辭するよ詔〳〵命よ應し終よ九州小ひろく邪法を出さず淨土門よ入る實各道理よ帰して凶徒亜よ志をひるがよ師の徳のちもりなるへし

（右馬氏越前國九岡よ移す 其の今の二行山白蓮寺是なり）

觀音寺と号す

後崎陽小ひり大音寺を辟ね竟よ晩年よをよび紀州和平山よ於て萬松寺を建立〳〵こゝよ住ちれしよ一日微疾を示と上足意天和尚（深川雲巖寺）二世うりかこゝよ師の病床を訪ふ師大よ喜び傳燈の法ましるへしとて委く傳法あり且諸弟子よ教誡〳〵遂よ牀よ坐し筆を求め辞世の偈を書しこゝく白道運歩數十年以火消火難思術と書畢て筆を擲端坐合掌〳〵高聲よ弥陀のそる号を唱〳〵眠りが如くして化をぬかえ

（軍配團扇の幡隨意院よ藏す 其後又 陣羽織の法藻是を伴ふり）

和元年辛亥卯四月十五日歳寿七十四 以上行化傳の要を摘

信州善光寺燈明 寺附赤城山燈明寺という台宗の寺あり有名の朝日山永昌寺 願成院と号を下台大通よあり淨土宗よして鎮蓮社尊誉上人を宗祖とも本ぞる阿弥陀如来の連慶の作十三觀音の慈恵大師の作とそ世よ除尼の〳〵寺傳よ云ふ古寺天正年間下台長者某 草創也と云所長者 其名今 幸そこと称也

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

町とよべるよりしを元和の頃今の地へ引うつせり
毋儀永日院再興あり也とあり則境内より長者の墳墓あり
圓満山廣徳寺　同所よりあり大徳寺流の禅宗にて始相州小田原
うめりーを天正十九年江戸へ迎され神田うえ
山を希叟宗芳禅師とよべり
當寺の總門の名額の筆跡合考小冒
下谷稲荷社　廣徳寺の向ひ側よりあり
是古き誤りにて別當を正法院とよべり祭神も蒼稲魂命にて本地十一
面観世音ゆえ中の鳥井小正一位稲荷大
明神と書る額あり崇保院公寛法親王の真蹟なり拝殿に掲る
同神号の額ハ蓮花光院道恕の筆なり
十一日より執行すれ谷の鎮守と称せ
社祭礼ハ溝年三月

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用